

2025年度

年 報



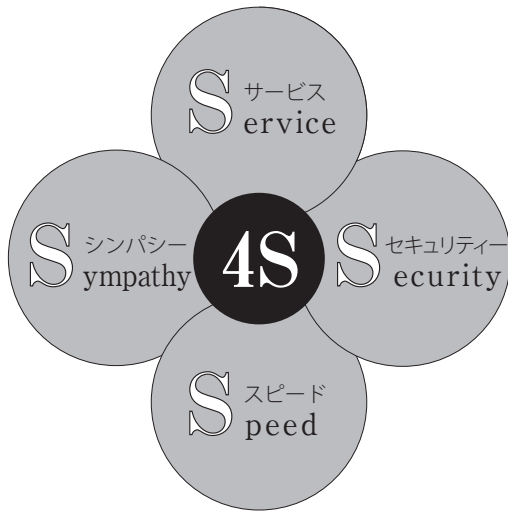
独立行政法人 地域医療機能推進機構

相模野病院

Sagamino Hospital



独立行政法人地域医療機能推進機構 相模野病院 基本理念



- S e r v i c e
先進の医療を快適に提供します
- S y m p a t h y
患者の皆様と想いを共有します
- S e c u r i t y
優れた安全対策で皆様を守ります
- S p e e d
すべてに迅速な対応を心がけます



独立行政法人地域医療機能推進機構 相模野病院 基本方針

1 患者第一主義

常に診療を受ける皆様の立場で考え誠実に行動します

2 安全確保

すべての診療現場で患者の皆様が安心できる環境を作り
安全で質の高い医療を提供します

3 社会貢献

良質な医療提供を基本として積極的に社会に貢献をします

4 公正で透明性のある病院

高い倫理観に基づき様々な情報を開示します

5 働きがいのある職場作り

創造性、主体性を尊重しあい自由で働きやすい職場を実現します



独立行政法人地域医療機能推進機構 相模野病院 施設認定



FS 522898 ISO 9001 : 2015

ISO 9001

認定日 : 2007年12月18日



人間ドック・健診施設機能評価認定第191号

日本病院会日本人間ドック学会認定

認定日 : 2008年1月15日





発刊のご挨拶

独立行政法人 地域医療機能推進機構 相模野病院

院長 今 崎 貴 生

2025 年度年報を発刊するにあたり、心より御礼申し上げます。ご来院頂いた患者さんや健診受診者さん、地域市民の皆さん、各大学の方々、診療所の先生方、医師会や歯科医師会、病院協会など関係諸団体、行政の皆さん、等、誠にありがとうございました。

2025 年度は、物価・人件費の高騰、少子高齢化、人手不足などの社会の変化や医療体制の変化によって、ここ数年同様、苦しい病院運営を強いられた一年でした。病院収支の安定は良質な医療の提供のための基礎的基盤ですので、職員にとっては、暑い夏は汗をかきながら、寒い冬は雪かきをしながらの大変な一年でした。ただ、厳しい病院の運営状況が関係各位のご努力で広く世の中に知られるようになり、国や県、市からの暖かい援助も賜ることができた一年でした。

院内の出来事としては、懸案だった外来化学療法室及び内視鏡室の拡張工事を実行することができました。悪性腫瘍に対する化学療法は薬剤の進歩で以前に比べ効果がかなり高くなっており、拡張工事によってより多くの患者さんに医療提供が可能になりました。また、内視鏡検査・治療はとても多くの需要がある分野で、患者さんや健診受診者さんのご要望にお応えできる設備を整えることができました。

JCHO グループでは、年に一回、全ての病院で患者さん満足度調査を行っています。2025 年度の調査では、入院部門も外来部門も本部が設定した合格点（平均点ではありません）を達成することができました。我々職員一同は微力ですが、すこしでも努力してより良い医療を提供したいと思っています。もしそこが患者さんや受診者さんに評価されたとすると、今年の満足度調査は大変嬉しい結果となりました。

この年報を通じて、我々の取り組みや成果をご報告できることを有難く思います。医療、介護の仕事は、暫くは苦しい状況が続くと思いますが、皆様に支えて頂きながら乗り切っていこうと思います。何卒、宜しく願い申し上げます。



年報発行に寄せて

事務部長 織田 修治

事務部長の織田修治と申します。

日頃より、当地域の皆さまからのご支援、ご指導に対して、並びに当院職員の診療への努力に対しこの場をお借りして心より御礼と感謝を申し上げます。

年報の発行に際し、令和7年度の当院の運営についてご報告いたします

予てからの念願でありました化学療法室・内視鏡室の拡大工事については、4月から8月までの間に行いました。双方とも、診療機能を停止せずに工事を行いましたため、夜間帯の工事等も多くあり、患者さま、施工会社さま、職員には大変ご迷惑をおかけしましたが無事に竣工することができ、殊更内視鏡に関しては、これまで健診の際に予約が取り難かった、経鼻内視鏡枠、診療時の鎮静化内視鏡の枠が拡充し、皆さまよりご好評いただいているところです。

更には、懸案事項であった照明のLED化についても年度内に完了し、一定以上の使用電力の抑制が叶ったところです。

また、北里大学のご協力により、昨年度より開始された無痛分娩については、産科麻酔専門医による安全な無痛分娩が可能となり、分娩件数の増加に繋がり、周産期センターの機能向上が実現したことも特筆すべき事項だと認識しております。

病院の運営状況に関しては、諸物価の高騰による費用増加は留まることがなく、病院運営への影響は大きなもので、非常に深刻なものとなりました。年度を通し大きく改善することなく委託費、材料費等への影響は継続しております。

米の価格高騰にも悩まされた1年間であり、給食業者さまのご努力に大きく支えられた年でもありました。

一方、職員の弛みない費用削減への協力により、病院運営は何とか一定水準を維持することができましたが、次年度の診療報酬改定も大きく期待いたしましたが、現在のところも、中東情勢の緊迫化等による物価上昇の抑制は期待できず、今年度も費用削減への努力は強いられるものと覚悟しております。

諸行事に関しては、10月15日に『顔の見える地域連携の会』を近隣の開業医の先生方のご出席を賜り、久しぶりに従前の方式で開催することができ、大変有意義な時間となりました。

11月8日には、日頃より当院健診センターをご利用下さっている企業の皆さま等にご参集いただき、『健康講演会』の開催の機会を得ることができました。

令和8年度も病院運営においては、様々な障壁があると考えられますが、今後とも、当地域の皆さま方のご意見を伺いつつ、当地域の医療体制に貢献できるよう精一杯努めて参ります。

引き続きご指導の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



年報に寄せて

看護部長 村上 博 美

2025 年度より看護部長を拝命いたしました。全力を尽くして任務に精励いたす所存でございますので、ご指導賜りますよう、よろしくお願い致します。

従来 2025 年問題とされてきた年を迎え、医療のあり方も目まぐるしく変化しています。2025 年度の成果について報告させていただきます。

JCHO の使命である地域医療を推進するため、地域連携室の師長を中心に、病院全体で緊急入院を受け入れる体制と連携の強化を行いました。目標値達成には少し届きませんでしたが、救急応需率は前年度より約 10% 増加し、重症度、医療・看護必要度も高値を維持し、急性期医療を担う病院としての役割を果たすことができました。また、令和 6 年度より開始された無痛分娩は、127 件と前年度より倍以上増加し、地域に求められる周産期医療としての役割を発揮することもできました。

さらに、切れ目のない看護を提供するため、地域連携室看護師を 1 名増員しました。今回は地域との連携はもとより、入院時支援の充実・PFM の推進を図ってまいります。

人材確保及び定着においては、残念ながら離職率が高く、少子化で応募者数は年々減少傾向にあります。そのため、学校訪問を再開しました。結果、採用試験、インターンシップへの参加者数が、前年度より増加しました。また、入職前支援として、内定者への新人看護師修了式の招待、職業体験を開始し内定者へのサポートの充実を図りました。離職率を下げるためには、部署の看護管理体制を盤石にする必要があります。今後は、管理者育成も含め、副看護師長複数配置できるよう管理者教育の再構築も図りたいと考えています。

働き方改革に伴うタスクシェア・専門性の向上としては、外来化学療法室での抗がん剤の穿刺の開始、放射線科と造影剤の穿刺のタスクシェアに取り組みました。

2040 年問題での働き手不足が危惧される中で、スタッフがいきいきと誇りを持って働き続けることができるようさまざまな環境を整えて、地域医療に貢献できるよう取り組んでまいります。

目 次

基本理念

発刊のご挨拶

院 長	今崎 貴生
事務部長	織田 修治
看護部長	村上 博美

I 病院の現況

病院の概要	1
組織図	2
職員配置状況	4
会議・委員会一覧	5
公衆衛生活動地域と 相模原市における診療圏	7

II 医事統計

III 診療部門

内科	15
呼吸器内科	16
循環器内科	17
血液内科	18
小児科・新生児科	19
乳腺外科	21
消化器外科	22
整形外科	24
産婦人科（周産期母子医療センター）	25
（婦人科腫瘍センター）	26
腎臓内科／血液浄化センター	27
眼科	28
歯科口腔外科	29
泌尿器科	30
麻酔科	31
消化器内科／内視鏡室	32
外来化学療法室	33

IV 医療技術部門

薬剤部	35
臨床検査部	37
放射線部	38
リハビリテーション室	39
視能訓練士	40
栄養管理室	42
ME室（臨床工学室）	43

V 看護部門

外来	45
手術室・中央材料室	46
3 A病棟	47
4 A病棟	48
4 B病棟	49
5 A病棟	50
5 B病棟	51
NICU/GCU	52
検査治療部門	53

VI 事務部門

総務企画課	55
経理課	56
医事課	57
診療情報管理室	58
医事課 医師事務作業補助員	59
安全管理室	60
総合患者支援センター	61
洗濯室	63

VII 健康管理センター

健康管理センター（診療部）	65
健康管理センター（看護部）	66
健康管理センター（事務部）	67

VIII 訪問看護ステーション

訪問看護ステーション	69
------------	----

IX 学術業績

循環器内科	71
乳腺外科	71
腎臓内科 / 血液浄化センター	71
歯科口腔外科	71
麻酔科	72
消化器内科 / 内視鏡室	72
薬剤部	72
臨床検査部	73
リハビリテーション室	73
健康管理センター (看護部)	73

I 病院の現況



病院の概要

▶ 施設概略 ◀

開 設 昭和 35 年 4 月
開 設 者 独立行政法人地域医療機能推進機構
施 設 名 相模野病院
病 院 長 今崎 貴生
所 在 地 神奈川県相模原市中央区淵野辺一丁目 2 番 30 号
敷 地 面 積 10,302.06㎡
建 物 面 積 18,411.32㎡
構 造 規 模 鉄骨造 7 階建
駐 車 台 数 211 台
許可病床数 212 床
職員数 453 名（令和 7 年 3 月 31 日現在）

▶ 標榜診療科目 ◀

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、腎臓内科、神経内科、リウマチ科、小児科、外科、乳腺外科、血管外科、消化器外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、麻酔科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、放射線科

▶ 診療指定 ◀

保険医療機関、労災指定、母体保護法指定、生活保護、育成医療、小児慢性疾患、被曝者、救急告示

▶ 附属施設 ◀

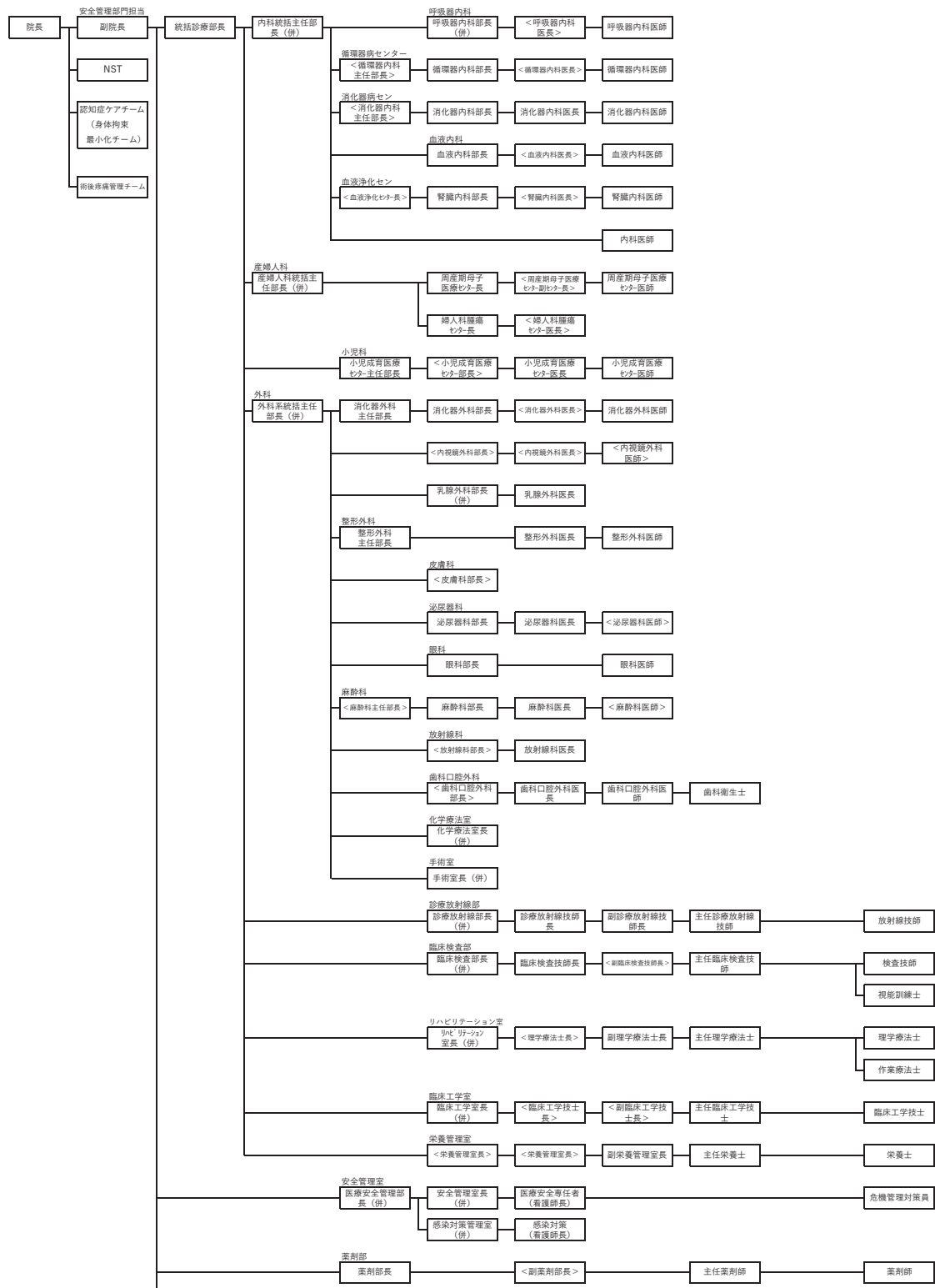
健康管理センター、周産期母子医療センター、小児成育医療センター、新生児集中治療センター（NICU・GCU）、婦人科腫瘍センター、消化器病センター、循環器病センター、血液浄化センター、訪問看護ステーション

▶ 主な施設認定 ◀

- ・厚生労働省指定臨床研修施設
- ・日本周産期・新生児医学会 母体・胎児指定施設
- ・日本周産期・新生児医学会 新生児指定施設
- ・母体保護法指定医師指定研修機関
- ・日本内科学会認定医制度教育関連施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本胆道学会認定指導医制度指導施設
- ・日本消化管学会胃腸科指導施設
- ・日本静脈経腸栄養学会 N S T 稼働施設
- ・日本透析医学会専門医制度教育関連施設
- ・日本血液学会認定専門研修教育施設
- ・日本外科学会外科専門医制度関連施設
- ・日本乳癌学会専門医制度認定施設
- ・日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構 遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構認定マンモグラフィ検診施設
- ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定施設
- ・日本泌尿器科学会泌尿器専門医教育施設
- ・日本口腔外科学会専門医制度認定准研修施設
- ・日本口腔診断学会認定研修機関
- ・日本口腔内科学会研修施設
- ・日本医学放射線学会画像診断管理認証施設 MRI 安全管理に関する事項
- ・NCD（National Clinical Database）施設会員
- ・ISO9001 認定施設
- ・健康評価施設査定機構優良認定施設
- ・日本総合健診医学会人間ドック健診専門医研修施設
- ・日本人間ドック学会人間ドック健診専門医研修施設
- ・日本人間ドック学会優良人間ドック・健診施設
- ・日本病院会優良人間ドック・健診施設
- ・日本総合健診医学会優良総合健診施設
- ・人間ドック健診施設機能評価認定施設

相模野病院 組織図

令和7年10月1日現在
(注) <>:欠員、():併任



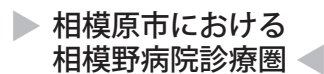
職員配置状況

令和 8 年 3 月 31 日現在

職員数	常勤職員数	任期付職員数	非常勤職員数	計	長欠者（再掲）
医 師	44	3	3	50	1
歯 科 医 師	2			2	
薬 剤 師	11		1	12	
臨 床 検 査 技 師	16		4	20	1
診 療 放 射 線 技 師	16			16	
栄 養 士	3			3	1
管理栄養士（再掲）	3			3	1
理 学 療 法 士	8			8	
作 業 療 法 士	1			1	
歯 科 衛 生 士	2			2	
視 能 訓 練 士	2		1	3	
臨 床 工 学 技 士	7			7	
保 健 師	4			4	1
助 産 師	21	0	4	25	3
看 護 師	186	8	24	218	9
准 看 護 師	2			2	
事 務 職 員	25		12	37	2
診 療 情 報 管 理 員	4		1	5	
医療社会事業専門員	3			3	
医師事務作業補助者	4		1	5	
調 理 師				0	
看 護 助 手			2	2	
そ の 他 技 能 職 員			4	4	
そ の 他 助 手 等	9	9	10	28	
合 計	370	20	67	457	18

委員会名	構 成 員	目 的	開催頻度
DPC・レセプト委員会	医師、看護師、薬剤師、事務職	DPC の適正な運用について検討する。	毎月定例 第四水曜日
診療録管理委員会	診療部、看護部、事務職、薬剤部、放射線部、検査部、診療録管理担当者	効率的なカルテ管理・診療録管理業務を図るため診療録管理委員会を設置する。	毎月定例
パス委員会	医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師	相模野病院の目標理念に基づき運営され、クリニカルパスを使用し、病院の提供する医療の質の向上をはかり社会貢献を目的とする。	奇数月定例
薬事委員会	医師、薬剤部長、看護部長、事務職等	相模野病院において使用するすべての医薬品（検査用医薬品を含む）および特定治療材料など医薬品消耗品の適正な管理と効率的な運用について必要な事項を審議することを目的とする。	随時
臨床検査適正化委員会	次に掲げる者の中から院長が任命し6名以内で組織する。 (1) 臨床検査部部长 (2) 臨床検査部代表 (3) 診療部診療部門医師代表 (4) 看護部代表	臨床検査の管理、運営上の適正化を図るとともに重要事項を審議し、管理運営に万全を期するため、院内各部署と連携を密にし、もって当院の発展に寄与することを目的とする。	随時
輸血療法委員会	医師、臨床検査技師、薬剤師、看護師	輸血療法は、善意の献血に支えられた治療であること、人体の細胞や液体成分を利用した独自の治療法であり、かつ副作用を皆無にしない治療という観点から、その安全性を確保するための最大限の努力を要する。	年6回定例
化学療法委員会	医師、薬剤師、看護師、事務職	相模野病院におけるがん化学療法を中心とした治療が、外来化学療法室及び入院病棟にて安全活安心に実施出来る事を目的とする。	隔月 第二月曜日
循環器センター運営委員会	循環器医師、看護師、診療放射線技師、臨床工学技士	心臓カテーテル室は、様々な職種が関与し、カテーテル症例数が増えてきているため、多職種間との連携を目的とする。	第一水曜日 (年6回)
企画・広報委員会	医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、ソーシャルワーカー、事務職	医療環境の向上及び活動内容や情報を内外に広報し周知することを目的とする。	毎月定例 第二火曜日
業務改善委員会	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、事務職	業務改善の推進を通じて、病院運営の効率化と職員の意欲向上を図り、もって医療サービスの向上に資することを目的とする。	毎月定例 第二火曜日
研修委員会	医師、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士、事務職	患者サービスの向上をめざして、病院の利用者（患者様、来院者）が満足できる医療サービスを受けていただけるように利用者の意見を調整して環境・職員接遇記述の改善・向上を行うことを目的とする。	随時
医療材料委員会	医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、栄養士、臨床工学技士、事務職、SPD 請負業者	医療材料等の選定について審議し、病院の運営に資することを目的とする。	奇数月 第三月曜日
安全衛生委員会	委員長は安全管理者又は衛生管理者の職にある者 医師、看護師、理学療法士、診療放射線技師、事務職	相模野病院の安全衛生規定に基づき、病院の安全衛生管理体制を明確にすることで、病院の業務遂行に関連して発生する労働災害および健康障害を防止するとともに、職員の安全確保と健康の保持増進を図ることを目的とする。	毎月定例 第四月曜日
透析機器安全管理委員会	専任医師、専任臨床工学技士、臨床工学技士、看護師	安全に透析療法を行うため、透析機器の保守を計画的に取り組み、透析液清浄化ガイドライン Ver2.01に基づき、透析液の清浄化に努め、安全で質の高い透析を提供することを目的とする。	毎月定例 最終水曜日
医療ガス安全委員会	医師、薬剤師、看護師、事務職、臨床工学技士、保守管理業者	高圧ガス取締法及びその他の法令等に基づき、医療ガス設備の安全管理に関する事、医療ガスに関する知識の普及及び啓発に関する事、その他医療ガスに関する必要な事項について審議・管理し、患者・職員等の安全を確保する事を目的とする。	毎年定例
医師看護師負担軽減委員会	医師、看護部長、事務部長、薬剤部長、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、管理栄養士、事務職、診療情報管理士、医師事務作業補助員	勤務医および看護師の負担軽減計画の策定と評価に関する事項を検討することを目的とする	年2回 (6月・2月)
特定行為研修研修実施病院管理委員会	医師、看護部長、副看護部長、看護師、事務職	保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号に規定する特定行為及び同項第4号に規定する特定行為研修に関する省令に基づき独立行政法人地域医療機能推進機構本部に設置された、特定行為研修委員会と連携を図り、研修実施病院における特定行為研修の安全と質の保証および向上を目指すことを目的とする。	偶数月
認知症サポートチーム委員会	医師、看護師、MSW、薬剤師	患者やその家族に対して、外来・入院・在宅で認知症看護を継続して行えるよう審議することを目的とする。	随時
情報システム委員会	医師、情報システム課長、副看護部長、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士、管理栄養士、診療情報管理士、事務職	相模野病院において使用する、電子カルテシステム、各種診療系部門システム、事務系情報システムおよび情報を含む情報資産の適正な管理と効率的且つ安全な運用について必要な事項について審議することを目的とする。	毎月定例

► 公衆衛生活動地域 ◀



Ⅱ 医 事 統 計



医 事 統 計

▶ 2025年度患者推移(入院・外来) ◀

入 院	診療実日数		患者延数		1 日平均患者数	
	当月 (A)	累計 (B)	(C)	累計 (D)	当該月 (C/A)	累計 (D/B)
4 月	30	30	5,082	5,082	169.4	169.4
5 月	31	61	5,147	10,229	166.0	167.7
6 月	30	91	5,052	15,281	168.4	167.9
7 月	31	122	5,402	20,683	174.3	169.5
8 月	31	153	5,177	25,860	167.0	169.0
9 月	30	183	4,592	30,452	153.1	166.4
10 月	31	214	5,411	35,863	174.5	167.6
11 月	30	244	5,162	41,025	172.1	168.1
12 月	31	275	5,537	46,562	178.6	169.3
1 月	31	306	5,123	51,685	165.3	168.9
2 月	28	334	4,816	56,501	172.0	169.2
3 月	31	365	5,015	61,516	161.8	168.5

外 来	診療実日数		患者延数 (検診除く)		1 日平均患者数	
	当月 (A)	累計 (B)	(C)	累計 (D)	当該月 (C/A)	累計 (D/B)
4 月	21	21	9,863	9,863	469.7	469.7
5 月	20	41	9,740	19,603	487.0	478.1
6 月	21	62	10,277	29,880	489.4	481.9
7 月	22	84	10,584	40,464	481.1	481.7
8 月	20	104	9,483	49,947	474.2	480.3
9 月	20	124	9,967	59,914	498.4	483.2
10 月	22	146	10,633	70,547	483.3	483.2
11 月	18	164	9,291	79,838	516.2	486.8
12 月	20	184	10,042	89,880	502.1	488.5
1 月	19	203	9,345	99,225	491.8	488.8
2 月	18	221	9,151	108,376	508.4	490.4
3 月	21	242	10,414	118,790	495.9	490.9

▶ 入 院 ◀

全科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	169.4	166.0	168.4	174.3	167.0	153.1	174.5	172.1	178.6	165.3	172.0	161.8	168.5

全科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	72,134	73,523	73,276	75,280	72,515	73,139	74,928	69,482	77,805	76,425	73,481	76,786	74,065

内科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	97.1	85.6	85.7	96.3	93.0	91.2	106.9	101.3	88.4	89.6	98.7	85.9	93.3

内科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	61,482	57,625	57,406	62,208	57,663	59,409	62,677	59,545	63,396	66,214	63,868	64,509	61,334

小児科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	7.5	13.1	17.6	16.3	14.1	7.8	12.9	10.7	17.1	13.9	12.4	16.9	13.4

小児科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	118,316	119,907	101,633	105,375	113,716	121,959	116,453	115,664	115,971	103,995	113,757	103,492	112,520

外科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	11.8	12.1	13.8	12.4	16.5	12.9	12.4	11.5	14.5	8.9	14.8	12.2	12.8

外科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	89,367	96,151	88,927	85,947	74,984	72,912	88,810	93,218	89,229	99,384	78,162	81,893	86,582

整形外科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	29.7	30.6	25.4	26.2	21.8	20.0	21.7	31.4	37.1	29.4	28.3	23.9	27.1

整形外科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	71,637	64,150	73,145	72,703	75,568	86,248	71,274	57,995	66,390	70,552	64,294	70,058	70,335

皮膚科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2025年度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

皮膚科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2025年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

泌尿器科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2025年度	5.5	5.7	6.2	3.6	4.4	4.0	3.7	3.9	4.5	4.7	2.8	3.7	4.4

泌尿器科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2025年度	67,285	105,523	74,837	77,455	92,713	81,503	103,066	94,683	107,097	76,817	130,114	106,952	93,170

産婦人科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2025年度	14.1	15.4	15.3	15.2	13.8	13.2	13.3	10.0	13.8	14.8	11.5	14.7	13.8

産婦人科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2025年度	96,681	98,189	100,438	103,989	102,970	99,276	104,245	100,510	118,795	96,442	100,624	100,735	101,908

眼科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2025年度	1.6	2.1	2.6	2.5	1.5	2.2	1.9	1.8	1.7	2.1	1.9	2.5	2.0

眼科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2025年度	159,274	155,247	143,149	168,889	164,184	160,300	159,447	157,623	164,698	160,752	145,120	161,355	158,337

歯科 口腔外科	入院患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2025年度	2.1	1.4	1.7	1.8	1.8	1.6	1.6	1.5	1.6	1.9	1.5	2.0	1.7

歯科 口腔外科	入院患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2025年度	90,227	96,803	96,701	91,768	95,744	97,457	92,093	90,521	101,288	89,215	92,584	91,501	93,825

▶ 許可働病床数(212床)に対する利用率 ◀

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2025年度	79.9	78.3	79.4	82.2	78.8	72.2	82.3	81.2	84.3	78.0	81.1	76.3	79.5

▶ 外 来 ◀

全科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	469.7	487.0	514.0	481.1	474.2	498.4	483.3	516.2	502.1	491.9	508.4	495.9	493.5
検診等	32.1	33.9	34.9	34.5	34.0	37.5	41.5	44.1	38.4	37.9	41.8	43.8	37.9
合計	501.8	520.9	548.9	515.6	508.2	535.9	524.8	560.3	540.5	529.8	550.2	539.7	531.4

全科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2025年度	20,265	20,058	20,945	20,738	20,638	21,555	19,597	19,871	21,876	19,994	19,775	21,822	20,595

内科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2025年度	203.5	213.5	203.3	214.5	210.9	219.0	222.9	234.1	226.7	218.5	227.4	223.2	218.1

内科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	28,476	30,334	29,993	30,850	29,564	32,383	27,765	27,486	33,566	27,457	28,931	30,182	29,749

小児科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	19.7	23.9	22.6	24.7	30.7	24.7	22.9	24.3	23.5	21.9	22.3	22.0	23.6
検診等	1.5	1.8	1.8	2.3	2.1	2.3	1.8	2.0	1.9	2.3	1.9	1.3	1.9
合計	21.2	25.7	24.4	27.0	32.8	27.0	24.7	26.3	25.4	24.2	24.2	23.3	25.5

小児科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	22,877	11,883	17,779	15,671	11,443	13,254	9,520	6,297	4,777	3,640	4,250	31,967	12,780

外科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	37.6	37.5	33.7	33.5	35.2	34.9	32.9	38.0	33.8	33.8	38.0	35.5	35.4
検診等	4.0	3.4	5.3	4.6	4.9	5.2	8.7	8.7	5.1	4.9	6.8	9.1	5.9
合計	41.6	40.9	39.0	38.1	40.1	40.1	41.6	46.7	38.9	38.7	44.8	44.6	41.3

外科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	33,969	30,160	39,055	32,704	39,896	37,511	34,973	39,373	36,858	45,940	33,039	39,544	36,919

整形外科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	52.6	51.4	49.0	49.6	49.6	55.0	50.2	55.0	52.5	57.2	61.8	54.2	53.2

整形外科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	9,106	8,473	9,558	9,046	8,935	8,602	9,625	10,039	9,060	9,615	8,995	8,679	9,144

皮膚科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	13.9	14.3	13.2	15.2	14.3	14.3	15.5	15.4	15.1	17.5	15.4	16.6	15.1

皮膚科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	3,037	3,079	3,184	2,629	3,066	2,729	2,849	2,909	2,603	2,537	2,927	2,781	2,861

泌尿器科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	16.7	43.9	41.8	44.9	37.9	44.2	43.5	46.1	44.8	45.5	43.5	47.5	41.7

泌尿器科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	13,022	10,537	11,008	11,676	12,181	12,868	12,422	13,750	13,499	15,916	14,716	13,018	12,884

産婦人科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	30.5	32.6	32.2	32.8	32.0	34.9	34.5	36.0	33.4	33.1	30.8	29.6	32.7
検診等	26.5	28.7	26.1	27.7	26.9	30.0	30.8	33.4	31.4	30.7	33.1	33.4	29.9
合計	57.0	61.3	58.3	60.5	58.9	64.9	65.3	69.4	64.8	63.8	63.9	63.0	62.6

産婦人科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	11,343	11,136	11,591	10,578	10,111	11,281	10,860	11,506	10,809	10,755	11,525	10,996	11,041

眼科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	46.1	48.2	45.9	49.2	42.8	53.0	46.1	49.8	53.6	49.0	49.8	51.2	48.7

眼科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	6,900	7,057	7,712	6,857	7,453	6,675	6,747	6,732	6,360	6,958	6,569	6,746	6,897

歯科 口腔外科	外来患者 1 日平均の月別推移												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	24.4	27.7	26.3	23.7	26.8	24.3	21.3	24.3	24.9	22.8	26.3	23.1	24.7

歯科 口腔外科	外来患者 1 人平均の診療額												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2025年度	8,972	9,157	7,579	8,468	8,472	8,459	8,478	8,741	8,578	9,032	8,431	8,205	8,548

Ⅲ 診 療 部 門



内

科

▶ 職員紹介 ◀

腎臓内科：酒井健史 永岡未来
循環器内科：栗原珠美 矢崎麻由 朝倉清史
消化器内科：松本高明 金明哲 蓼原将良 須藤理佐子 林直人
血液内科：石井隆司 新井翔太 譚琳 年吉陸
呼吸器内科：今崎貴生 矢内原智子 渡邊昭典

▶ 業務内容 ◀

1日平均入院患者数 約 93.3 人（昨年約 96.8 人） 1日平均外来受診患者数 約 220.4 人（昨年約 222.3 人）

▶ 2025年度総括 ◀（詳細は各部門の年報参照）

本年度は外来特殊部門の設備が拡充された。内視鏡室と外来化学療法室が拡張され、専門医療の提供体制が充実した。入院診療においては入院患者数を概ね維持することができた。外来受診者数も維持できており、紹介重点医療機関として認知されつつあることが要因と考えられた。一方、救急車の受け入れ件数は昨年度より減少してしまった。救急医療の充実が課題として残った一年であった。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

次年度は各診療科において人員が減少する。当院ならではの診療を維持することが必要であるが、医師の業務負担が増すことも避けたい。各専門科が専門の診療に専念するために、業務の効率化・適正化が次年度の目標になる。

地域の医療に貢献することも当院の重要な使命である。救急医療、高齢者医療の必要性は年々増加している。専門性と一般性の両輪による医療を提供することも次年度の目標のひとつとしたい。

呼吸器内科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医師：今崎貴生、矢内原智子、渡邊昭典、矢那瀬信雄（健診センター所属）

非常勤医師：佐藤崇、猶木克彦、山田薫梨、山本倫子

▶ 業務内容 ◀

1日あたり平均入院患者数 24.4人

気管支鏡件数 36件

外来診療

▶ 2025年度総括 ◀

紹介患者さんは増加しており、呼吸器内科での専門的な治療を必要とする患者さんを積極的に受け入れ、入院患者数を維持することができた。

外来診療では、非常勤医師 山本医師、佐藤医師により、患者数を減少することなく維持できた。また、今までより専門的な診療が可能となった。

気管支鏡件数は減少。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

常勤医が減り、呼吸器内科での入院患者数は縮小せざるをえない。診療の質を落とすことなく、内科内で他科の医師と連携をとり、入院診療・外来診療を維持していきたい。

外来では地域のニーズにこたえられるよう努める。

循環器内科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医：栗原珠美（部長）日本循環器学会 循環器専門医、日本不整脈心電学会 不整脈専門医、
日本内科学会 総合内科専門医

矢崎麻由（医員）日本循環器学会 循環器専門医、日本内科学会 総合内科専門医

朝倉清史（医員）日本循環器学会 循環器専門医、日本内科学会 総合内科専門医

▶ 業務内容 ◀

心臓カテーテル検査件数：38 件

心血管インターベンション治療件数：11 件

ペースメーカー治療件数：10 件

▶ 2025年度総括 ◀

カテーテル件数については、高齢化の影響や、冠動脈の狭窄があったとしても、石灰化の強い病変が多く、当院での治療が困難のため、治療目的で他院に紹介を行った症例も多く、昨年度と比較してさらに減少傾向となった。その一方、大学からの高齢心不全患者さんの受け入れやペースメーカー植込み後の患者さんの受け入れを積極的に行っていた。

外来診療については、引き続き逆紹介を積極的にすすめ、近医クリニックからの紹介率が上がるような外来診療をこころがけた。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

大学と病診連携をはかり、引き続き高齢心不全患者さんの転院での受け入れや、ペースメーカー植込み後の患者さんについても、当院ペースメーカー外来で継続加療を行っていけるよう、体制を整えていく。

また引き続き近医クリニックからの紹介率の増加を目標に、地域と連携を図った質の高い医療を提供できるように、診療体制を充実させていく。

血液内科

▶ 職員紹介 ◀

〔常勤医師〕 石井隆司、新井翔太、譚琳、年吉陸（2025年4月～9月）、高橋佑佳（2025年10月～2026年3月）

〔非常勤医師〕 宮崎浩二、堀米佑一、鈴木隆浩教授（北里大学医学部・血液内科学）

▶ 業務内容 ◀

化学療法件数 入院：96件／月、外来：110件／月

骨髄穿刺件数：298件／年

入院患者数 530名／年

▶ 2025年度総括 ◀

北里大学病院から派遣をいただき、2025年度は常勤医4名の体制で診療を行った。入院患者数および化学療法の件数、骨髄穿刺件数などの実績は前年度から若干増加した。当院で診療する患者層は高齢者中心となりつつあり、自ずと治療内容も変化してきている。高齢者であるが故に治癒を目指すための治療が困難な症例が増加している。如何にQOLを維持し病勢をマネジメントしていくかが、高齢者血液腫瘍の治療において重要となっている。

同時に在宅医療との連携が重要となっている。病病連携・病診連携の重要度が増した1年であった。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

2026年度は再度常勤医3名体制となる。医師個々の業務負担が増加することが見込まれる。相模原・町田地域の血液疾患診療体制の一端を担う立場として、診療の質を維持することは重要な使命である。医療事故を起こさないように注意することは当然として、慎重に、誠実に、確実な医療を提供することを目標としたい。

小児科・新生児科

▶ 職員紹介 ◀

常 勤 医：笠松祐介（4/1～2026/3/31）、太田まり（9月30日まで）、川田幸平（10/1～3/31）、横関祐一郎、今井純好
非常勤医：風張真由美（月2～3回外来、内分泌等）
安藤寿（月1回循環器疾患等）当直医師として他数名

【NICU・GCU】

NICU：12床（NICU加算対象12床、2024/年6月から加算1から2へ変更有）、GCU：12床（GCU加算対象12床）の独立病棟。神奈川県周産期救急システムの県央・北相地域の中核病院（基幹病院：北里大学病院）であり、新生児専門医研修施設である。本院出生新生児の対応はもちろんのこと北里大学病院NICUと連携を取りながら、地域の母子センター医療の一環としての役割をはたしている。2013年4月からのGCU増設により、他院からの受け入れもスムーズに行えるようになった。2014年度は人工呼吸管理患者が増加、2015年10月からはGCU入院患者適応の拡大（B型肝炎母子感染予防、新生児ジストレス有児の経過観察など）を実施。2018年9月からNICU加算対象病床数12床へ増加。新型コロナウイルス感染症出現以降入院患者数、北里大学病院以外からのバックトランスファーは減少した。

2023年度は5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたが、院内における感染対策が確立したことにより、他の感染症母体からの出生児の対応もスムーズにできるようになった。2025年度は入院数増加し、バックトランスファーを含めた院外新生児の入院の割合も増加した

（入院実績）

	2023 年度	2024 年度	2025 年度
入院総数	199	198	227
早産児	85	93	91
呼吸管理	75	82	93
院外出生児	48	51	67
backtransfer	15	8	9

主な疾患：主な疾患： 双胎、早産低出生体重児、一過性多呼吸、RDS、特発性高ビリルビン血症、先天性心疾患、その他（頭蓋内出血、染色体異常、感染症）、新生児仮死、B型肝炎母子感染予防、基幹病院などからのbacktransferなど。新型コロナウイルス感染症流行以降北里大学病院以外のbacktransfer 減少は継続。呼吸管理する割合は増加。

【一般小児科病棟】

病棟は外科などの混合病棟に属している。2014年8月からの地域包括ケア病棟の新設により、小児科の入院患者は一部を除いて個室での管理となり個室料金・付き添い必要などから思うような入院治療は出来ていないのが現状である。

【入院状況】

主な疾患：気管支喘息（喘息性気管支炎）、細気管支炎、痙攣性疾患（熱性痙攣など）、肺炎、敗血症疑い、尿路感染症、髄膜炎、急性胃腸炎・脱水、早産児、一過性多呼吸など

【外 来】

月曜日から金曜日まで午前是一般外来、午後は予約制で専門外来、予防接種、乳児健診を行っている。再診は予約制。2007年7月から午前外来3診体制を開始。2010年10月からは新棟外来に移り、恵まれた新しい環境の中で診療を行っていたが、2022年度は新型コロナウイルス感染症流行持続の影響で外来患者数は減少が持続した。2023年5月の新型コロナウイルス感染症の5類への移行後はマイコプラズマ感染症などの感染症が増加した。

予防接種：相模原市および近隣の市町村から委託を受けている定期予防接種、また自費の任意予防接種の実施。2013年度は四種混合ワクチン開始。2016年度からヒブ・肺炎球菌同時接種開始。2025年度から5種混合開始。

慢性疾患：喘息性疾患、血液疾患などの慢性疾患の定期フォロー。

1ヵ月健診：主に本院出生児を対象。新生児聴覚スクリーニング二次検査など。

循環器：北里大学小児科の小児循環器専門医により月1回実施。

フォローアップ外来：主に本院 NICU・GCU 退院患者のフォローアップを行い成長を見守っている。

内分泌：独立した外来ではないが、風張医師により、低身長、肥満などの相談を実施。

R S ウイルス感染予防のための治療：シナジス・バイフォータス接種（4月～10月）他施設からの接種依頼も受け入れている。

＜地域医療への協力＞

- 1、乳幼児健診（相模原市、町田市、座間市からの委託）、乳幼児2次健診など
- 2、予防接種（相模原市、町田市）
- 3、相模原市救急医療の一環としての二次救急担当（月34回）
- 4、相模原市小児科医会への参加、症例検討会、講演など

乳 腺 外 科

▶ 職 員 紹 介 ◀

林京子：日本外科学会専門医・指導医、日本乳癌学会乳腺専門医・指導医、日本癌治療認定医機構認定医

藁谷美奈：日本外科学会専門医・指導医、日本乳癌学会乳腺専門医・指導医、臨床遺伝専門医 日本癌治療認定医機構認定医

▶ 業 務 内 容 ◀

乳腺外科は乳腺専門・指導医である林、藁谷が担当し乳癌手術および化学療法、乳腺良性腫瘍手術を扱っている。臨床遺伝専門医でもある藁谷は遺伝カウンセリングも担当しBRCA 遺伝子検査を行っている。外科全体として相模原市乳がん検診には消化器外科の羽廣健仁医師、久保史医師、甲斐田武志医師に協力を得ている。乳腺チームは週1回手術予定症例検討と今後の治療についてカンファレンスをおこなっている。また病棟看護師 作業療法士とともに入院中の患者の状態や治療方針の確認を行っている。また月1回の乳癌症例検討で臨床検査技師、放射線技師、放射線科医と診断のブラッシュアップを行っている。

▶ 2025年度総括 ◀

2025年度の乳腺の手術件数は130件（前年度154件）だった。ホルモン陽性乳癌はCDK4/6阻害剤の登場により術後治療の幅が広がった。トリプルネガティブ乳癌は免疫チェックポイント阻害剤（ペンブロリズマブ）の適応拡大されたがIRAE（間質性肺炎や糖尿病、甲状腺機能異常 肝機能障害）などの副作用のマネジメントが当院では困難であるためやむを得ず特定機能病院に紹介している。Her2タイプはフェスゴの登場により化学療法時間の短縮と皮下注射という簡便さも加わりpCR(pathological Complete Response)は変わらず得ることができた。また、エンハーツの登場によりlow Her2タイプの再発乳癌治療の幅が広がった。新しい薬剤が出る度に化学療法のレジメンの見直し、化学療法委員会委員長である藁谷医師は薬剤師と癌化学療法認定看護師と連携し円滑に進めている。遺伝カウンセリング、遺伝子検査も順調に件数を増し術前のBRCA 検査の結果に応じて術式選択している。

乳腺に関連する外来数が多いため消化器外科医らにも協力を得ている。甲斐田医師と久保医師は市乳癌検診の視触診を、羽廣医師はマンモグラフィ読影医資格を維持し読影もおこなっている。相模原市では日本乳癌学会の認定施設2施設のうちの1つが当院である。認定施設更新もあり日本乳癌学会では毎年発表している。2024年5月に近隣に乳腺の専門クリニックができたため針生検数は減少したが乳癌の診断がついて紹介される患者数が多くなった。また、手術と化学療法が必要な患者さんをメインに治療し、ホルモン療法単独になった患者さんを逆紹介し、当院でなければできない治療に特科するという方向転換した。それにより手術、化学療法が必要な患者さんにじっくり向き会える時間を作ることができた。当院の乳腺外科は初診から治療決定までのスピードと安全性を重視し治療を行っている。ガイドラインを熟知した上で、患者さん一人一人にあった治療方針を考え、迅速に治療を提案している。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

2026年度も乳腺専門チーム2人は変わらない。2026年度は手術件数は年間150件を目標としている。当院は研究会・学会にも積極的に参加し、最新の知識向上に努め認定施設更新を継続していく。またHer2タイプ乳癌の治療,low Her2患者に対するエンハーツの適応拡大など、患者さんに不利益のないように、大学と連携をとり、最新の治療を提供していく。また、コスト削減として全摘+腋窩郭清にはハーモニックを使用するがその他の手術は電気メスのみの従来の手術方法も取り入れコスト削減もこころがけていく方針である。

消化器外科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医師；羽廣健仁、久保任史、甲斐田武志。

非常勤医師；坂本純一（北里大学 外科）

▶ 業務内容 ◀

2024年度より常勤医が1名減り、3名で日常診療を行った。月曜日から金曜日までの午前は毎日外来初診対応を行いつつ、火曜日、水曜日、金曜日の週3日間は午前および午後に定時手術を行った。

肝胆膵疾患は主に久保医師、上部消化管疾患は主に羽廣医師、下部消化管疾患は主に甲斐田医師が中心となって診療にあたった。また、週1回火曜日の手術時には北里大学から坂本医師にサポートしていただいた。

そのほかヘルニアや急性虫垂炎・腸閉塞・腹膜炎をはじめとした緊急疾患は来院時の状況などにより主治医を決定し診療を行った。内科からの依頼が多いリンパ節生検や中心静脈ポート挿入なども行った。

▶ 2025年度総括 ◀

総手術症例；250 症例 全身麻酔症例；212 症例

胃切除：6 症例、結腸・直腸切除：29 症例、胆嚢摘出術：49 症例、ヘルニア：106 症例

その他腹部臓器手術：20 症例、体表手術：40 症例

常勤医が1人減り3人となったが、手術件数は確保することが出来た。

大腸や胆嚢結石、虫垂炎、鼠径ヘルニアをはじめ腹壁癒痕ヘルニア、腸閉塞に対しても積極的に腹腔鏡手術を行った。虫垂炎に対しては診察時の状況で緊急手術と待機的手術（保存的加療後の予定手術）を選択的に行った。その結果、結腸・直腸切除、虫垂切除、胆嚢摘出、ヘルニア手術では95%以上の症例で腹腔鏡手術が可能であった。

治療の妥当性やより適切な治療法を検討するために消化器内科とは月に2回程度、そして科内では週1回の術前検討会、入院患者のチャートカンファレンス、リハビリカンファレンスを他職種（看護師、リハビリ職員）とともに行っている。また相模原市の夜間・休日の外科二次救急診療においても、一月に3日（4枠）の二次救急診療に従事した。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

診療内容としてはこれまでと同様にガイドラインを重視した治療内容の決定を行い、手術も安全性、根治性、低侵襲性を実現できるよう一層の技術の向上、手技の定型化を各々が目指したいと考えている。北里大学病院からは大学病院外科では手術枠を確保することが困難な良性疾患（胆石、虫垂炎、ヘルニア）を中心に多くの患者さんを御紹介いただいているが、今後は

さらに近隣のクリニック、病院などともより深く連携するために地域連携を重視した当院の外科の特色なども研究会を通じて周知する取り組みも行っており、その当院の強みを生かして地域医療を担える外科としての役割を果たしていきたい。

整形外科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医

松久孝行（主任部長 リハビリテーション室長） 整形外科専門医 肩関節外科、上肢・スポーツ整形外科

岡厚 整形外科専門医 股関節外科、一般整形外科

三谷 幸平（4月～9月）、斎藤 佑太（10月～3月） 一般整形外科

非常勤医

高江洲真（木）

専門診 股関節診（1回/2か月） 中村正則 昭和大学整形外科客員教授

▶ 業務内容 ◀

外来診療では午前のみであるが1日約50人の診療を行った。手術は月曜日から金曜日まで毎日行っており、2025年度は約500件の手術を行った。手術の内訳は、①人工股関節置換術50件、②人工膝関節置換術24件、③リバース型人工肩関節置換術8件、④肩関節鏡視下手術29件、⑤人工骨頭置換術25件、⑥骨折その他363件

▶ 2025年度総括 ◀

外来患者数は1日平均約50人、入院患者数は月平均約26人であり、また手術件数約500件（前年度454件）と増加した。松久医師は肩関節外科が専門であることから、肩関節鏡視下手術とリバース型人工肩関節置換術、岡医師は股関節外科が専門であることから人工股関節置換術を中心に手術を行った。更に救急搬送や近隣の医療機関からの患者を積極的に受け入れることができた。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

救急患者の受け入れ体制を強化し、救急車の受け入れ件数の更なる増加を目指します。また肩関節疾患、股関節疾患をはじめとする関節疾患や外傷に対して専門的な手術治療を行うことにより、紹介患者の増加を目指していきます。これまでと同様に大学病院や地域との連携を図り、質の高い安定した医療を提供していくことを目標とします。

産婦人科（周産期母子医療センター）

職員紹介

〔常勤〕 望月純子 産婦人科専門医・指導医 周産期（母体・胎児）専門医 臨床遺伝専門医
石川 隆三 産婦人科専門医
〔産婦人科専攻医（常勤）〕 木島華（2025/4/1～9/30） 木村まどか（2025/4/1～9/30）
清河恒葵（2025/10/1～2026/3/31）
〔非常勤〕 松澤晃代 産婦人科専門医・指導医 周産期（母胎・胎児）専門医
落合大吾（北里大学医学部産婦人科学教授）、海野信也、吉原一
関口和企、吉村嘉広、山崎優、五島裕之、平田岳史、濱田奈実（以上北里大）、
秦ひろか（開業医）
〔無痛分娩担当麻酔科医〕 日向俊輔（北里大）、奥富俊之（聖マリアンナ大）、
近藤弘晃（北里大）

業務内容

相模原市内の分娩施設では分娩数が減少しているものの、当院では前年比で12%増加した。無痛分娩を開始したことによる初産婦の増加、近隣施設の産科閉鎖が一因と思われる。
神奈川県県央北相地区の地域周産期母子医療センターとして例年並みに早産症例等の母体搬送を受け入れた。

2025年度総括

〔入院〕

分娩児数	459（双胎 15）
分娩母体数	444
帝王切開	123（27.7%）
母体搬送依頼	75
母体搬送受入	51（68%）
逆搬送	10

早産児	計	出生児体重	
28～30w	10	1000g未満	4
31～33w	16	1000-1500g	11
34～36w	44	1500-2000g	23

〔無痛分娩〕

無痛分娩症例	127
初産	86
経産	41

〔外来〕

胎児超音波外来	151
遺伝カウンセリング外来	72
NIPT 検査実施	47
羊水検査	2

2026年度目標・計画

- 母児の安全性の確保
夜間当直可能な常勤医は4名のみ（うち2名はローテーター）で、夜間・休日の診療レベルを確保するために、引き続き北里大学病院産科と連携して、産科を専門とする医師を配するよう努める
- 分娩数の維持
無痛分娩希望者が増える傾向にある。安全を確保しながら満足度の高い無痛分娩を提供するため、無痛分娩に精通した麻酔科医師の確保に努める。無痛分娩に習熟した病棟スタッフの育成は進行中であるが数は不足した状態である。看護部と協力しながら進めていく。

学会業績

- JCHO 学会発表
- 第129回日本産科麻酔学会発表

産婦人科（婦人科腫瘍センター）

▶ 職員紹介 ◀

常勤医 新井正秀

非常勤医 上坊敏子、望月愛郎、大野勉、中村基寛

後期研修医 木島華、木村まどか（4～9月）、清河恒葵（10～3月）

▶ 業務内容 ◀

原則毎日外来を行っています。手術については良性疾患を中心に開腹手術、腹腔鏡手術、経腔的手術を行っています。

なお相模原市の日曜祝日の2次救急を月1～2回担当しています。

▶ 2025年度総括 ◀

手術件数（2025年1月から12月）は151件でした。

その内訳は、開腹手術42件（子宮全摘40件）、腹腔鏡手術38件（子宮全摘17件、卵巣手術20件）、子宮鏡手術13件、腔式子宮全摘6件、子宮頸部円錐切除術25件、その他27件でした。

今後は腹腔鏡手術の件数を増やしていきたいと思います。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

手術件数を増やそうとしても、手術枠が足りないことや器械不足のためできていない状況です。コツコツと実績を積み上げて、手術の機会を増やせればと考えております。

腎臓内科/血液浄化センター

▶ 職員紹介 ◀

腎臓内科医師：酒井健史、永岡未来、青山東五、渡會梨紗子、鎌田美美

看護師：看護師長 今井純子

森田美恵子、田中陽子、渡邊由美子、岡本弘美、亀崎みどり、後藤宇慧

臨床工学技士：係長 折田祥吾

久保大一郎、住谷千宗、平川智子、薄葉新太郎、渡部紗己

▶ 業務内容 ◀

保存期慢性腎臓病患者さんの外来管理、かかりつけ医との病診連携、腎代替療法の説明と決定への支援

腎臓病患者さんの原因精査と必要に応じて高次医療機関への紹介と連携

当院での外来通院維持透析、透析導入患者さんの入院、外来維持透析患者さんの緊急入院。

また他の内科や外科、整形外科において検査・手術入院が必要な維持透析患者さんの透析管理を他の透析施設と連携を図り実施している。

透析ベッド数は最大 30 床で、月水金は午前、午後の 2 クール、火木土は午前の 1 クールで実施している。

2023 年度 透析件数：7,622 件（外来：6,802 件、入院：762 件）

2024 年度 透析件数：6,937 件（外来：6,323 件、入院：614 件）

2025 年度 透析件数：6,924 件（外来：6,371 件、入院：553 件）

血液吸着療法：0 件、持続緩徐血液浄化療法：0 件、腹水濾過濃縮再静注療法：4 件

透析導入患者数：10 名 他院よりの維持透析受け入れ件数：30 名

▶ 2025年度総括 ◀

腎代替療法の説明と決定を含めた包括的な保存期慢性腎臓病患者さんの外来管理を行い、必要に応じて腎生検が可能な高次医療機関への紹介を行った。

また、血液透析導入、外来通院患者さんと入院中の患者さんの維持血液透析管理、透析患者さんの周術期管理を行った。前年度と同様、シャント観察とフットケアの評価も継続、定期的なケースカンファレンスを交え、患者さんの情報を多職種で共有、患者さんの病態、生活スタイル、家族・社会背景にあった透析治療、食事療法、患者指導を継続した。

今年度より当院、北里大学病院循環器内科と連携を行い、閉塞性動脈硬化症に対するレオカーナを用いた LDL 吸着療法を開始した。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

慢性腎臓病患者さんのかかりつけ医との病診連携を推進する。

また、腎代替療法の説明と決定支援を引き続き行い、腎臓病患者さんも高齢化が顕著となっているため、保存的腎臓療法を含め、患者さん個人のじゃ快適・生活背景にあわせた治療の選択を支援する。

透析分野においては、患者さんの高齢化にあわせ、引き続き多職種でのカンファレンスを交え、個々に合わせた透析療法を目指し、他透析施設とも連携を行う。

▶ 職員紹介 ◀

常勤医 春日井絃子 高橋実希子

非常勤医 齋藤勝広（月曜外来、2025.9 まで） 飯田嘉彦（月曜外来、2025.10 から）

龍井苑子（金曜外来） 池田哲也（未熟児網膜症診療）

庄司信行（緑内障外来・白内障手術） 清水公也（白内障手術）

▶ 業務内容 ◀

2025 年度は、医師 2 名体制での診療を安定して維持することができた。外来診療は、午前は初診と再診外来、午後は完全予約制で外来、検査、処置を行った。NICU での未熟児網膜症診療は山王病院アイセンターの池田医師による専門的診察を行った。手術は主に白内障手術を火曜日午前と木曜日午後に行った。

隔月で北里大学病院眼科庄司教授による緑内障外来と白内障手術を行い、不定期で山王病院アイセンター長（前北里大学眼科教授）の清水公也教授による白内障手術も行った。

視能訓練士は常勤 2 名と非常勤職員で、眼科外来業務と健康管理センターで検査を行った。

▶ 2025年度総括 ◀

2025 年度は医師 2 名の安定した体制で、大きな事故やトラブルもなく診療を行うことができた。白内障手術件数は増加し目標達成することができた。手術室にて 1 件薬剤投与に関するインシデントが発生し、対策を行う機会があった。外来単価は微増であった。院内勉強会やミーティングの機会は状況をみて行い、日々スタッフ間でのコミュニケーションをとることで、円滑で質の高い外来診療を行うことに努めた。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

2026 年度は、診療報酬改定により白内障手術件数を維持したとしても減収が予想される。患者さんのニーズにあわせて日帰り手術の開始を検討しながら、今後も最大の合併症である術後眼内炎を起こさないように十分に留意しながら、満足度の高い手術治療を提供できるよう努めたい。外来に関しては、引き続き丁寧な説明を心がけていくとともに、待ち時間の短縮についてスタッフ間で意見交換して患者満足度の向上を目指したい。今後も北里大学病院眼科との連携をより密にして、地域のニーズに答えられる、安全で質の高い医療を提供していきたいと考えている。

歯科口腔外科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医：山下雅子 日本口腔外科学会専門医・指導医、日本口腔内科学会専門医・指導医
日本口腔診断学会認定医・指導医

高部芳哲

非常勤医：森良之

衛生士：山本玲、青島泰子

▶ 業務内容 ◀

新患患者総数	1,415 人
紹介患者数	1,250 人
院内他科依頼数	61 件
全身麻酔手術件数	202 件
静脈内鎮静手術件数	12 件
周術期口腔機能管理 新患患者数	158 件

▶ 2025年度総括 ◀

全身麻酔による手術枠を増設したことで手術件数の向上を成し遂げることができ、安定した入院患者を確保することができた。関連の大学病院からの手術応援医師の派遣も継続することができ、難易度の高い手術や全身麻酔で処置を希望する患者さんに対し希望に沿ったかつ早い日程での手術を継続して案内することができた。大きな事故もなく安全な診療を遂行することができた。学会発表、論文投稿も積極的に行い、アカデミックな面も充実していた。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

2026 年度は更に全身麻酔での手術件数術の増加に努める。院内の周術期口腔管理の拡大に努め、逆紹介の向上を図る。歯科口腔外科医の指導にも力を入れにより口腔外科としての専門性を生かした診療の構築と継続を図る。引き続き、歯科医師と衛生士、看護師やコメディカルと情報を共有しながら安全な診療を行っていく。学会発表、論文投稿も積極的に行っていく研修施設としても充実させる。地域連携を図り、地域医療に貢献し、患者さんには安全でより良い医療サービスを提供していく。

泌尿器科

▶ 職員紹介 ◀

常勤医 平井祥司 高田治子

非常勤医 入江啓（月曜日）田畑健一（1、3、5週火曜日）平山貴博（2、4週火曜日）中村真利江（木曜日）塩野裕（金曜日）

▶ 業務内容 ◀

1ヶ月平均外来患者数	44.9人
1ヶ月平均入院患者数	5.3人
腹腔鏡下根治的腎摘除術	3件
腹腔鏡下腎尿管全摘＋膀胱部分切除	5件
TUR-P	10件
TUR-Bt	77件
WAVE	39件
高位精巣摘除術	4件
成人の小手術 陰嚢水腫等	26件

▶ 2025年度総括 ◀

入院患者 外来患者 手術件数ともにほぼ横ばいで推移している。

前立腺肥大症の超低侵襲治療である WAVE 治療を導入し 39 件施行した 前年度の 18 件から大幅に伸びており全例良好な成績をおさめている

化学療法を行った患者数はほぼ前年と同程度数

化学療法は尿路上皮癌に対し新たにペンブロリズマブ＋エンホルツマブ ペドチン併用療法を導入し 良好な成績で 腎細胞がんに対しての術後補助療法であるペンブロリズマブも開始している

今年度は開腹手術の件数が低下 近隣でのロボット手術が増加しているためと思われる

外来に新しい診察台を導入した

▶ 2026年度目標・計画 ◀

外来診療では泌尿器科としてのスペシャリティをスタッフ一同更に高めたいとの考えに変わりはない。WAVE 治療は件数を伸ばしておりさらに症例数を伸ばしたい 広報活動も必要と考える

当院ではロボット支援下手術を行えないため他の低侵襲手術に移行していかざるを得ない外来において診察台をはじめ設備の老朽化が目立ち更新したい

当科は北里大学泌尿器科からの派遣を受け診療体制を整えているため、大学病院の後方支援は引き続き充実させたい。

麻 醉 科

▶ 職員紹介 ◀

金澤正浩 （麻醉科専門医・指導医）部長
藏重千絵 （麻醉科専門医・指導医）副部長
行木香寿代 （麻醉科専門医・指導医）医長
嶋尾淳子 （麻醉科専門医）医長

▶ 業務内容 ◀

2025 年度 麻醉科管理手術件数 1458 件（総手術件数 2159 件）、うち全身麻醉件数 1375 件（硬膜外麻醉・伝達麻醉・脊髄くも膜下麻醉併用 292 件）

▶ 2025年度総括 ◀

2025 年度も北里大学麻醉科学教室からご支援をいただき、円滑な手術室運営と安全な麻醉管理を行うことができた。岡本教授並びに医局員の先生方に深く感謝申し上げます。

麻醉科管理件数と全身麻醉件数は、2024 年度と比べてそれぞれ 54 件、87 件増加した。整形外科の特に肩・上肢の手術においては末梢神経ブロックの併用により、術後痛のコントロールが良好であった。また、麻醉科医・専任の看護師・薬剤師をメンバーとする術後疼痛管理チーム（APS）による適用件数は 186 件と昨年度より 23 件増加した。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

2026 年度は麻醉科に関わる診療報酬の大幅な改訂により全身麻醉の定義が変更される。可能な限り影響が少なくなるように運営をしていきたい。全身麻醉件数は 115 件 / 月、術後疼痛管理チームによる APS 症例は 200 件 / 年を目標とする。引き続き安全な麻醉管理を行っていきけるよう、診療各科の先生やコメディカルの方々とコミュニケーションをとり、協力しながら業務を行う。

消化器内科／内視鏡室

▶ 職員紹介 ◀

消化器内科常勤医師：松本高明、金明哲、蓼原将良、井廻佳奈（2025 年 9 月～）、須藤理佐子、林直人

呼吸器内科常勤医師：今崎貴生、矢内原智子、渡邊昭典

消化器内科非常勤医師：今泉弘、三橋利温、山崎真希、入江文、奥脇興介、和田拓也、升谷寛以、渡辺真郁、玉置明寛、花岡太郎、石崎あや那

看護師：小林由紀子、今井弘恵、天野保子、池田舞、阿部結実、黒川愛吏、中村亜歩、犬童絵里子

臨床工学技士：久保大一郎、薄葉新太郎、高田海斗

臨床検査技師：馬場秀子、川村麻貴子

▶ 業務内容 ◀

外来診療として、内科初診は毎日消化器内科医師が診療にあたり対応した。内視鏡検査では、午前中に上部消化管内視鏡検査を行い、午後に下部消化管内視鏡検査、ESD や ERCP などの治療内視鏡を行った。

上部消化管内視鏡：8,101 件、下部消化管内視鏡：1,492 件（うちポリペクトミー：794 件）、気管支鏡：36 件、EUS：297 件、ESD：65 件、ERCP：145 件、EUS-TA：29 件、緊急止血術：71 件
その他：イレウス管挿入、経皮経肝胆嚢穿刺吸引術など。

▶ 2025年度総括 ◀

消化器内科常勤医師 5 人中 3 人の異動や交代があったが、滞りなく業務を移行することができた。2025 年 8 月に内視鏡室の拡充工事が終了し、9 月より健診における上部消化管内視鏡検査の増枠を開始した。また健診における内視鏡検査の負担を考慮し、経口内視鏡と経鼻内視鏡の検査枠の調整を行った。北里大学病院より後期研修医を受け入れ指導にあたった。月 3 回の消化器二次応需に対応し、夜間・休日の緊急内視鏡治療を行った。他院からの緊急処置検査を積極的に受けた。内視鏡室で麻薬管理を行い、入院患者さんの麻薬使用、麻薬伝票の管理を円滑に行えるようにした。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

2026 年度は消化器内科常勤医師の減少が予定されているが、科内で積極的に情報共有を行い引き続き質の高い医療の提供を心がける。また救急搬送の依頼や地域連携室経由の診療依頼を断らず積極的に応需していく。消化器二次応需を月 4 回に増枠し、地域医療にも貢献していく。内視鏡室の拡充工事に伴い更なる内視鏡検査数の増加を予定しているが、非常勤医師とも連携し円滑に内視鏡検査が行えるよう尽力していく。

外来化学療法室

委員会委員

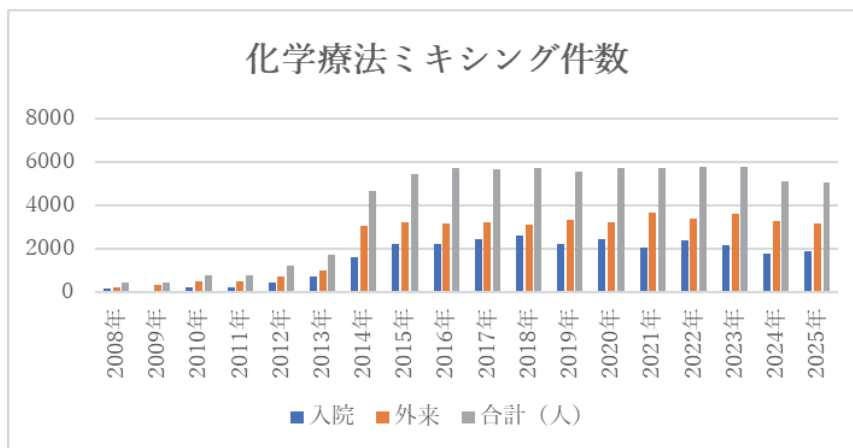
委員長：藁谷美奈（日本乳癌学会乳腺専門医、日本癌治療認定医機構認定医）

副委員長：大塚知信（薬剤部部長）

庶務：矢沢尚枝（薬剤部）

委員：石井隆司（血液内科専門医）、平井祥司（日本泌尿器科学会専門医）、久保任史（消化器外科専門医）、新井正秀（婦人科腫瘍専門医）、矢内原智子（日本呼吸器学会専門医）、蓼原将良（日本消化器病学会専門医）、吉田美欧（薬剤部）、大嶋美加子（癌化学療法認定看護師）、小林由紀子（外来看護師）、小出小百合（病棟看護師）、佐山美奈子（病棟看護師）、風間貴之（医事課）

2025年度総括



- ① 入院（青）、外来（赤）、合計（緑）のミキシングの数を上表に表す。2025年5月9日より新設した化療センターが運用開始となった。ハード面が整ってもソフト面が充足していないので、著明な件数増加は見込めないが、以前より外来枠は確保しやすくなったと思われる。
- ② 化療センター新設にあたり運用方法も変更し、より効率化を図る予定である。その一環に化学療法センター IV Ns. による点滴ルート確保があり、10月より非起壊死性抗癌剤レジメンに対して運用開始となった。医師のみでなく患者さんの時間的負担軽減になっている。
- ③ 「最新の治療を提供する」をモットーに、新レジメンは化学療法委員会全員で確認している。特に薬剤師が繊細かつ細心の注意を払ったレジメン作成に従事している。既存のレジメンでも、無駄なく安全に施行できるよう、要望に応じて審議し対応した。
- ④ 当院独自のルールの見直し、ブラッシュアップを必要に応じて行った。

2026年度目標・計画

どのような状況でもそれぞれの学会が発信するガイドラインを熟知し、患者さんに不利益のないよう、医師、薬剤師や看護師と共に安全第一に治療が遂行できるよう、更に改善を図る。また、医療資源の無駄を極力減らして病院の利益にもつながるように努める。

IV 醫療技術部門



薬 剤 部

▶ 職員紹介 ◀

薬剤部長：大塚知信 主任薬剤師：北原みゆき

薬 剤 師：水野知子、長島仁美、朝倉祐紀（R7.2.13- 産休）、矢沢尚枝、中村花、吉田美欧、徳留千江、石戸健太郎、阿部航平

派遣薬剤師：保泉有里、浜村優衣（R7.2.26-）

補助事務員：安藤紗織、田辺美悠

▶ 業務内容 ◀

		令和 7 年度 (a)	令和 6 年度 (b)	増減 (a - b)
処方箋枚数	入院	37,663	37,387	276
	外来	4,410	4,567	-157
院外処方箋発行率 (%)		90.5%	92.3%	-1.8%
一般名処方箋発行率 (%)		47.5%	39.8%	9.5%
注射処方箋枚数	入院	51,955	55,572	-3,617
	外来	14,081	14,281	-200
薬剤管理指導	実施件数	6,203	6,159	44
	算定件数	4,453	4,431	87
病棟薬剤業務実施加算 1 件数		9,369	9,282	87
持参薬確認表作成 件数		3,519	3,423	96
薬剤情報提供料 件数		1,409	1,500	-91
抗がん剤ミキシング件数	入院	2,074	1,812	262
	外来	3,383	3,329	54
術後疼痛管理チーム加算		187	171	75
二次性骨折予防継続管理料 件数		86	84	2
褥瘡対策（薬学的管理計画作成）件数		10,480	11,078	-598
医薬品購入金額（千円）※1		1,300,284	1,130,133	170,151
年度末在庫金額（千円）※1		27,442	25,849	1,593
後発医薬品比率（%）※2		95.6%	95.2%	0.4%

※1 薬剤部集計分（税抜）：内用薬、注射薬、外用薬、漢方薬、試薬、医療用器具

※2 3 月期の数量割合

▶ 2025年度総括 ◀

2025 年度は、薬剤管理指導業務の実施件数および算定件数は前年度とほぼ同様な件数であった。産休取得者や後半スタッフの入れ替わりによる休暇取得等の影響もあったが、派遣薬剤師を有効的に活用し効率よく業務を行うことにより達成できたと考えている。

医薬品等購入費は、新規発売の高額な薬剤が増え、前年度より約 1 億 7 千万円ほど増加しているが、年度末在庫金額は、前年度とほぼ同等に抑えることができた。これは、病棟薬剤師により抗がん剤の使用予定を早期に把握する等の努力により適正な在庫管理が実施できたと考え

▶ 2026年度目標・計画 ◀

新年度よりスタッフの入れ替わりも予定されており、新任薬剤師の育成に努めたいと考えている。また、業務の見直しを行い、現在の手順を再度見直し、より安全に効率的な薬物療法の提供が行えるよう、PDCA サイクルを回し改善を図っていきたいと考える。

診療報酬改定により、病院薬剤師においても地域医療機関との連携強化がより一層求められている。病棟薬剤師の業務を従来の体制評価に捕らわれず、ポリファーマシー対策、施設間の薬剤情報連携、転院・退院時の服薬指導等に資する介入を行えるよう取り組みを行いたいと考えている。2026 年度の診療報酬改定により、病棟薬剤業務実施加算は、現行のものが病棟薬剤業務実施加算 2, 3 となり点数の引き下げが行われるが、新規の設定された病棟薬剤業務実施加算 1 の上位の点数の算定がなされた、当院においても上位の点数が取得できるよう、業務の見直し改善を行い対応したいと考える。

また、医療安全面においては、マスター管理、チェック体制の見直し等を行い安全な薬物療法の提供が行えるよう改善を図りたいと考える。

医薬品管理においては、年々、高額な薬価の医薬品が多くなり、医薬品等購入費が増加する一因となっている。前年度に順じて、抗がん剤等の高額医薬品の使用予定を早期に把握し、不良在庫が発生しないよう医師との連携し在庫管理を行っていきたいと考えている。

臨床検査部

職員紹介

部長：羽廣健仁 技師長：近江亜矢子
 主任：高橋深雪 小林芳宏 久高真澄
 技師：石田麻里 宮尾舞 金子恵美 中村杏奈 斎藤実咲 武藤恵
 秋田朝美 竹内敢楠 平本佳菜子 古家伊織 高内美雅 高橋典子
 濱谷正孝
 非常勤技師：村上裕美子 赤妻禎子 馬場秀子 川村麻貴子
 招聘検査技師：風間日出子 金沢富紀 関谷美恵 豊島和子 石塚真由美 西原由美
 奥脇繁子 早坂尚子 宮澤由美 星野望 佐久間佳乃

業務内容

2025年度 実績		診療部門		健診部門	
		検査部	外部委託	検査部	外部委託
尿 検 査		25,133	607	55,271	3,143
糞 便 検 査		337	0	61,323	0
血 液 検 査		141,532	1,169	62,366	0
生 化 学 検 査		740,488	9,198	589,462	6,409
免疫血清検査		75,773	14,996	32,584	2,793
穿 刺 液 検 査		302	34	0	0
細 菌 検 査		13	11,776	0	21
病理組織検査		0	4,363	0	727
細胞診検査		0	5,129	0	4,674
生理検査	心 電 図	7,162	0	45,222	0
	超 音 波	6,482	0	14,956	0
	そ の 他	4,147	0	37,210	0
計		1,001,369	47,272	898,394	17,767
合 計		1,048,641		916,161	

2025年度総括

- ・検査総数の前年対比は診療部門が95%、健診部門が101%であった。
 検体検査：診療部門95%、健診部門101%であった。
 生理検査：診療部門で96%、健診部門は98%であった。
 紹介重点医療機関となったが、診療部門の検査数は5%以内におさまり、大きな変動は認めなかった。
- ・超音波検査士を新たに2名が取得した。（腹部1名、体表1名）
- ・JABTS（日本乳がん検診精度管理中央機構）A判定1名、B判定1名、取得
- ・生化学検査（I）オーダー数の適正化に向けて臨床への働きかけを行った。
- ・退職者 常勤：1名

2026年度目標・計画

- 検査業務の啓発：検査についての知識の共有化を図る。
- 円滑な検査室運営：担当部署内知識・技術の更新。マニュアル整備
- 検査部門の業績向上：業務効率化・コスト削減。状況把握と改善（診療報酬改定による影響など）。

放射線部

▶ 職員紹介 ◀

部長：山根拓郎	技師長：鈴木達弥	副技師長：長友和樹
主任：須貝貴志	主任：喜田裕憲	主任：阿部菜穂子
技師：川瀬実菜子	技師：恩蔵舞子	技師：折原あゆみ
技師：木村圭吾	技師：尾西宏紀	技師：吉田聖良
技師：八木沢療	技師：瀬戸優汰	技師：大滝美幸
技師：林菜央	技師：石渡雄二	招聘技師：丹治あゆみ
招聘技師：成田由樹子	招聘技師：村上香織	受付事務：佐藤幸子

▶ 業務内容 ◀

診療部門は院内全科に携わり、一般撮影・透視検査・CT・MRI・マンモグラフィ・心臓カテーテル検査および治療・骨密度測定検査・歯科口腔外科撮影・ポータブル撮影・術中透視および撮影等を行っています。

健診部門は院内の健康管理センターおよび院外の巡回健診の業務に携わっています。院内外ともに胸部撮影と胃部透視検査を行い、院内ではマンモグラフィおよび注腸検査も行っています。

PACS（医療用画像保存通信システム）による画像配信システムが確立され、すべての画像がデジタル保存されています。また、各種認定資格取得技師（医療画像情報精度管理士、放射線管理士、放射線機器管理士、放射線被ばく相談員、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師など）も多数在籍しています。

《2025年度取得認定資格および取得者（更新を含む）》

『検診マンモグラフィ撮影技術認定』	大滝美幸
『胃がん検診専門技師』	木村圭吾
『X線CT認定技師』	喜田裕憲
『放射線管理士』	木村圭吾、尾西宏紀、瀬戸優汰、八木沢療
『放射線機器管理士』	尾西宏紀、瀬戸優汰、八木沢療
『医療画像情報精度管理士』	喜田裕憲、木村圭吾、尾西宏紀、吉田聖良、瀬戸優汰、林菜央

▶ 2025年度総括 ◀

診療部門の撮影および検査件数は2019年度までは毎年10%前後の増加傾向にありました。しかし新型コロナウイルス感染症の影響を最大に受けた2020年度は、診療部門では前年度と同数程度、健診部門では前年度を大きく下回ってしまいました。その後2022年度に入っても新型コロナウイルス感染症は引き続き収束する様子がないままでしたが、2022年度以降2025年度まで、診療部門および健診部門ともにコロナ前と同程度まで回復することができています。

2025年度も多種類の認定資格を多数取得することができました。これにより放射線部門の検査および画像等の質の担保および向上に繋げることができています。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

- ・経営状況悪化からの回復（前年度を上回る撮影および検査件数の確保）
- ・積極的な研修会参加および各種認定資格の取得による検査および画像等の質の担保および向上

リハビリテーション室

▶ 職員紹介 ◀

リハビリテーション室長：松久孝行

理学療法士長：欠員

副理学療法士長：菰澤香菜子

主任理学療法士：佐々木孝修 箕輪俊也

理学療法士：小川絵美 北村大空 田中智子 吉富桃子 穴井温人

作業療法士：遠峯綾子

助手：小野純子 家村鈴子

▶ 業務内容 ◀

	2025 年度	2024 年度	前年度比
総単位数（単位）	32,844	30,699	107.0%
入院	26,154	24,446	107.0%
外来	6,690	6,253	107.0%
出来高総額（円）	64,006,130	58,317,780	109.8%
入院	51,588,180	46,757,890	110.3%
外来	12,417,950	11,559,890	107.4%
包括病棟平均実施単位	2.08	2.05	101.5%

▶ 2025年度総括 ◀

2025 年度の実績は前年度と比較すると、総単位数、出来高総額共に 7～10% 上回ることができました。

2025 年度は職員の異動がなく定数で稼働することができ、リハビリオーダー数の増加がみられました。

そのため 1 人当たりの平均取得単位数が増加し、出来高総額の向上につながったと考えます。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

1. スタッフ個々の医療技術のアップデート：学会、研修会、勉強会等への参加をさらに促進し、個々のレベルアップを図る
2. 業務実績の向上：セラピスト 1 人当たりの平均取得単位数を 1 日 18 単位目標とする

視能訓練士

職員紹介

立花美穂 視能訓練士外来主任
馬場育子 視能訓練士
石川美和子 視能訓練士

業務内容

眼科外来検査：視力検査、屈折検査、眼圧検査、角膜曲率半径検査、角膜内皮検査、眼筋機能検査、両眼視機能検査、色覚検査、視野検査、眼底カメラ、眼軸長検査、OCT（光干渉断層計）、フリッカー検査、角膜厚測定検査、眼鏡処方
健診センター：視力検査、眼圧検査、眼底カメラ、色覚検査、調節検査

○ 2025 年度検査実績

・眼科外来

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
視力	727	695	848	822	658	813	778	687	797	761	645	823	9,054
眼圧	635	622	706	699	558	718	696	622	716	687	578	743	7,980
屈折	119	106	112	116	100	114	110	98	96	103	85	137	1,296
屈折（散瞳後）	0	1	0	1	3	0	0	0	0	0	2	1	8
眼鏡	1	4	6	5	3	7	6	6	6	2	3	9	58
近方視力	2	1	3	5	2	6	4	4	8	4	2	4	45
角膜曲率	229	210	253	257	212	229	231	214	220	217	186	271	2,729
角膜内皮	56	50	48	56	58	39	49	55	35	52	48	51	597
精密視野	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
眼筋機能	43	28	36	48	36	30	30	25	26	36	35	33	406
両眼視	1	1	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	6
色覚	0	1	0	1	3	0	1	1	0	1	1	0	9
視野（GP）	20	32	14	20	21	18	13	17	17	14	17	18	221
視野（HFA）	190	153	182	177	151	168	176	150	180	169	145	189	2,030
眼底カメラ	13	16	16	22	14	18	13	13	11	10	12	11	169
IOLマスター	32	18	25	32	25	20	24	27	18	24	28	31	304
フリッカー	4	0	3	1	3	4	7	5	7	2	9	8	53
ヘス	1	0	3	2	0	1	0	0	1	0	0	0	8
パキ	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3
Aモード	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
OCT	349	294	390	385	325	352	377	305	364	349	296	378	4,164
合計	2,424	2,232	2,646	2,651	2,174	2,537	2,515	2,230	2,503	2,432	2,092	2,708	29,144

・健診センター

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
視力	1,250	1,273	1,571	1,721	1,386	1,548	1,693	1,372	1,481	1,266	1,245	1,573	17,379
眼圧	338	371	526	588	495	526	597	462	533	496	465	552	5,949
眼底カメラ	608	569	672	762	658	674	802	643	799	723	623	688	8,221
色覚	6	6	5	2	0	18	1	0	0	0	0	8	46
近方視力	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	2	0	5
調節	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	2	0	5
合計	2,202	2,219	2,776	3,075	2,539	2,766	3,093	2,477	2,813	2,487	2,337	2,821	31,605

▶ 2025年度総括 ◀

常勤が定年により昼までの勤務となり、新たに常勤1名が加わり随時2名で検査の対応をしていました。

昼の眼科検査枠を増設し、予約が取りにくかった枠の対応をしました。

眼鏡処方枠を予約項目に新設しました。

午前中の健診センターの検査を、視能訓練士と金曜日は看護師に振り分け検査をおこないました。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

視能訓練士が随時2名で検査の対応をしているので、今まで以上に滞りなく検査を進めていきたいと思います。また眼鏡処方枠を新設したので、院内での眼鏡処方希望の患者さんが増えると思われます。

栄養管理室

副栄養管理室長：林康子

委託給食会社：(株) グリーンヘルスケアサービス 所長：柳取慶介

管理栄養士：3名 栄養士：4名 調理師：1名 盛付・洗浄パート：26名

業務内容

		R7年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	R6年度平均	R5年度平均
一般食	食数	7,078	6,988	6,998	7,937	7,521	6,528	8,036	7,660	8,318	7,757	6,610	7,040	88,471	7,373	7,310	6,629
	構成比(%)	55.9	55.9	60.1	62.6	61.1	56.5	62.8	61.3	62.6	62.6	56.1	59.1	-	59.7	59.9	57.1
特別食	食数	5,023	4,695	3,923	4,037	3,951	4,388	3,946	4,267	4,166	3,895	4,660	4,093	51,044	4,253	4,275	4,310
	構成比(%)	39.6	37.5	33.7	31.8	32.1	38.0	30.8	34.2	31.4	31.5	39.6	34.4	-	34.6	35.1	37.1
分娩食	食数	571	821	721	713	837	633	813	563	794	732	505	771	8,474	706	605	673
	構成比(%)	4.5	6.6	6.2	5.6	6.8	5.5	6.4	4.5	6.0	5.9	4.3	6.5	-	5.7	5.0	5.8
計		12,672	12,504	11,642	12,687	12,309	11,549	12,795	12,490	13,278	12,384	11,775	11,904	147,989	12,332	12,190	11,612
特別食加算算定率(%)		29.3	31.6	27.3	25.5	27.8	33.0	27.4	28.4	27.0	26.3	34.2	29.6	-	29.0	28.5	-
祝膳	食数	28	48	36	35	46	33	40	29	43	41	24	40	443	37	32	35
ドック食	食数	270	342	458	540	475	521	643	459	562	464	432	459	5625	469	435	537
栄養指導 件数	入院	68	63	48	46	58	58	42	46	45	42	43	28	587	48.9	56.1	57
	外来	4	4	5	3	8	10	9	2	4	3	4	4	60	5.0	10.9	26
計		72	67	53	49	66	68	51	48	49	45	47	32	647	53.9	67.0	83
内科	入院	39	33	30	29	38	33	29	26	22	22	22	16	339	28.3	39.8	42
	外来	3	2	3	2	0	3	6	1	1	2	0	2	25	2.1	9.2	23
外科	入院	12	14	8	9	9	12	7	6	11	8	9	6	111	9.3	7.2	8
	外来	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.2	0.4	1
整形外科	入院	10	9	5	6	6	10	5	9	11	9	8	3	91	7.6	6.2	5
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0
泌尿器科	入院	7	7	5	2	5	3	1	3	1	2	3	3	42	3.5	2.9	2
	外来	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0.2	0.2	1
産科・婦人科	入院	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	4	0.3	0.0	0
	外来	0	0	1	0	0	1	1	0	3	1	2	1	10	0.8	0.7	1
小児科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0
	外来	1	1	0	1	8	6	1	1	0	0	2	0	21	1.8	0.4	0
入院栄養指導料【初回】算定率(%)		32.5	32.6	24.5	18.5	26.6	27.2	18.7	24.6	19.9	22.0	23.7	11.7	-	23.5	25.1	24.3
栄養管理 計画書	作成件数	362	391	424	426	366	382	415	369	378	411	349	419	4692	391	390	379
NST	算定	5	6	7	9	5	2	2	3	5	5	2	1	52	4.3	6.3	4
	非算定	5	1	1	0	3	0	5	0	2	1	0	3	21	1.8	1.1	1

2025年度総

- ・特定給食施設等管理者及び担当者講習会（オンライン形式）に参加し、「日本人の食事摂取基準 2025 年版の概要と給食施設での活用について」・「給食施設の衛生管理について」学んだ。
- ・月 1 回以上の行事食を提供し、患者給食の向上に努めた。
- ・入院栄養指導は全診療科で実施可能となり、積極的に栄養指導に取り組んだ。

2026年度目

- ・年2回の食事アンケートの実施により、献立の改善に繋げ月1回以上の行事食に反映させる。
- ・入院栄養指導件数の増加に向けて対象患者の抽出を強化し、外来栄養指導では医師へ指導依頼を働きかけていく。
- ・NST 算定件数の増加に向けて、多職種連携をはかる。

▶ 2025年度総括 ◀

臨床工学技士7名体制で、血液浄化業務・心臓カテーテル業務・人工呼吸器業務・ME機器管理業務・内視鏡業務・手術室腹腔鏡業務・ペースメーカー業務を努めました。血液浄化センターでは、エコー下穿刺の技術の向上に努め、医療材料を見直し、コストの削減を検討しました。病棟にてメーカーと協力し、医療ガス点検を行いました。

循環器関連業務としては、メーカー同行のもとPMチェックを積極的行いました。

内視鏡業務では、上・下部内視鏡における、検査・治療及び緊急内視鏡、気管支鏡、超音波内視鏡に加えて、2025年9月に内視鏡室を拡充し、新たに透視室を造設したことにより、増加しているERCPや上下部ステント挿入など透視下内視鏡にも積極的に参画し、年間1万件にも及ぶ内視鏡件数にチームの一員として貢献しました。北里大学の血液浄化療法の臨床実習も11年目となり、学生の体調管理の確認や感染予防対策を行い、6名を受け入れ、無事実習を終えることができました。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

血液浄化センターでは、業務を効率的に行えるよう環境整備を行い、患者監視装置のメンテナンスに重点を置きたいと思います。内視鏡業務の行える技士を増やすため、教育活動にも力を入れていきたい。

V 看 護 部 門



▶ 職員紹介 ◀

看護師長：今井純子

副看護師長：秋元愛

看護職員：27名（常勤：12名、任期付き：3名、非常勤：11名、夜勤専従看護師：1名）

看護助手：4名

▶ 業務内容 ◀

診療科：内科（消化器、呼吸器、循環器、腎臓内科、血液内科、神経内科、膠原病科）、

外科、整形外科、小児科、眼科、皮膚科、産科・婦人科、泌尿器科、歯科口腔外科

二次救急告示：内科、小児科、外科、消化器、産婦人科

検査・治療部門と協働し、夜間休日における二次救急に対応し患者の受け入れを行っている。

中央外来処置室：5床、急患室：3床、感染隔離床：1床

各科外来における外来受診者の診察介助及び検査・処置の実施と介助。救急外来搬送患者の対応や外来輸血、各種検診、在宅療養支援、継続看護対象患者への支援などを行っている。また、入院支援として看護補助者による予定入院患者の入院時間診票の入力（婦人科、整形外科）を開始した。

2025年度 外来患者数月平均：9858名

2025年度 救急車受入数：1920件

▶ 2025年度総括 ◀

昨年に引き続き人材育成に取り組み、チーム内でのリリーフ体制をとり人員の確保を行った。また、10月より3Aで無痛分娩を開始。それに伴い、少しずつ母子センターの外来患者数が増加しており、午後の外来枠を増やした。人材育成により1人の看護師が複数の科に対応できる体制をとっており、母子センターの外来対応や、保健指導にも柔軟に対応できていた。

12月より輸血を化学療法室で行うようになり、処置室のベッドの確保はスムーズに行えた。また、朝の人員調整で各科へのリリーフもあらかじめ決めておき、速やかに救急車を受け入れられる環境を整えた。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

チーム活動の継続による外来看護の質の向上

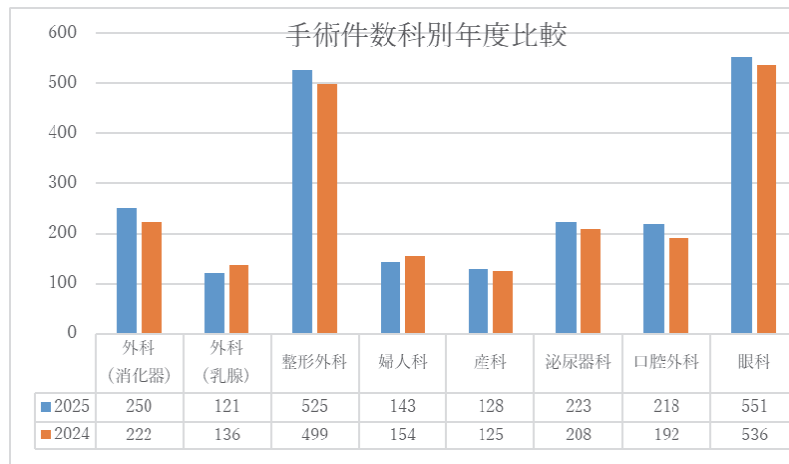
業務改善・人材育成により人、物の有効活用

手術室・中央材料室

職員紹介

手術室責任者：松久孝行整形外科診療部長 副看護部長（手術室師長併任）：植田美和
副看護師長：平口正則 川井真純 岩井隼 常勤看護師：10 名

2025年度業務内容



2025年度総括

手術件数は、2, 159 件 / 年（前年度 2, 072 件）で 4% 増加。そのうち全身麻酔件数は、1, 375 件 / 年（前年度 1, 329 件）、月平均 115 件で病院目標は達成できた。前年度比較で、口腔外科が 218 件で 12% 増であり、手術日を月曜日の午後枠を増やしたことによる効果である。次に外科（消化器）が 250 件で 11% 増であった。医師数は前年度より 1 名減ったが、内視鏡下の手術件数が増えた事や院内からの依頼患者が増えたことも要因と考えられる。泌尿器科は 223 件で 7% 増であり、レジューム（経尿道的水蒸気治療）の件数が増えた事が考えられる。心臓カテーテル治療は、59 件（前年度 114 件）で前年度より半数減少していた。手術時間については、予定手術が 92% を占めており、時間外（休日・夜間）が 2% のため、ほぼ時間内での対応ができていた。手術室の稼働率を上げるために、効率的な部屋の調整や、手術枠の検討を医師と共にやっていく。

術前訪問は、664 件で前年度より 40% 増で、目標の 20% より倍の実施ができた。スタッフが術前に訪問することを目標値に上げ、意識的に時間調整をしながら取り組めた成果である。来年度は、患者の不安軽減や、病棟スタッフとの情報共有、記録との連動など、件数増と質の向上を目指して取り組んでいきたい。

2026年度目標・計画

- ①各科、他部門との連携を図り、効率的で安全な手術の実施（全身麻酔手術件数 115 件 / 月以上）
- ②病棟訪問実施率（術前訪問・術後疼痛管理）の向上と情報共有できる記録の連動
- ③医療安全対策 タイムアウトの徹底とチェック漏れ対策の強化

3 A 病棟

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：杉崎香恵

副看護師長：田村瑞枝、兵藤美佳 西村梓

主任看護師：吉田恵巳

看護職員：助産師 11 名、看護師 7 名、嘱託助産師 1 名、看護助手 4 名

▶ 業務内容 ◀

許可病床：38 床

診療科：産科、婦人科、内科、外科、整形外科、口腔外科、眼科（女性混合病棟）

実績：分娩取り扱い件数 444 件（昨年度より 12% 増加）（うち帝王切開 123 件、双胎分娩 15 件）

無痛分娩 127 件

母体搬送 51 件 産後ケア入院 87 件

▶ 2025年度総括 ◀

分娩件数は前年度より増加。近隣施設の分娩施設の閉鎖による影響、無痛分娩の効果も考えられる。無痛分娩も事故なく、軌道に乗せることができた。しかし、無痛分娩介助できる助産師の育成に時間を要している。個々の努力も一層求められる状況にあるが、医師と協力し、研修を積み重ね、今年度は、無痛分娩に立ち会う助産師のスキルアップを目指していく。両親学級も再開し、毎月約 30 組が参加してくれている。お昼寝アートのサービスも継続して実施。患者や患者家族から好評であり、継続している。産後ケア入院の問い合わせが多く、受け入れも、年々増加している。産後のママ達の支援につながることができたと考える。患者からのリクエストも多いため、今年度はパパも参加できる産後ケアを企画していく。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

- ① 入院患者受け入れの増員、病床稼働率 80% 以上
- ② 無痛分娩の知識、技術の向上をスタッフ全体で取り組んでいく
- ③ 周産期センターとして、協働するスタッフの育成

以上の目標を掲げ、幅広い年齢層の全ての患者さんのニーズを捉えた看護を展開し、女性のライフステージを支え、安全で質の高い看護の提供を目指します。3A・NICU/GCU で共通の目標を持ち、継続性、一貫性のあるケアを提供できる人材育成、母子一体の視点が持てるスタッフの育成を目指します！

スタッフ 1 人 1 人を大切に、1 人 1 人が役割発揮し、問題提起と解決ができるように、心理的安全性の高い病棟を目指します。

4 A 病棟

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：芦萱和美 副看護師長：太田千尋
常勤看護師：22 名 看護補助者：6 名（雇用形態は様々、内障害者雇用 1 名）

▶ 業務内容 ◀

入院患者数：1001 件 予約入院：405 件 緊急入院：596 件
平均病床稼働率：87.1% 平均在院日数 11.4 日
入院診療科：内科 886 件【循環器：181 件、消化器：393 件、腎臓：61 件、呼吸器：167 件、
血内：82 件】
他科 115 件【口腔外科：52 件、眼科 8 件、泌尿器：31 件、外科：18 件、整形外科：7 件】
許可病床：39 床（HCU5 床、陰圧室 5 床） 看護基準：7：1

▶ 2025年度総括 ◀

循環器・腎臓・消化器・呼吸器などの内科疾患患者を中心とした重症患者や緊急入院を多く受け入れている病棟です。陰圧個室も 5 床保有していることから、COVID-19、結核疑いなどの感染症患者の受け入れも行っています。今年度からは、口腔外科の患者の受け入れを開始しました。また、内視鏡室の拡大に伴い、消化器検査も増加しています。

緊急入院の受け入れのため、急性期を脱し病状が安定した患者を他病棟に受け入れてもらい、スタッフの強化を図り入院体制を整えています。入院患者 65 歳以上の割合が 77.5% と高く、高齢患者に対する治療も増えています。このことから、入院時から退院を見据えた関りができるように、医師・医療ソーシャルワーカー・退院支援看護師と連携を密に図りながら調整を進めています。その中で退院前訪問や退院後の訪問看護との同行訪問を行い意識的にかかわることができるよう調整しています。患者さんに寄り添い、思いに沿った個別性のあるケアができるよう、カンファレンスを充実させ日々の関りを大切にしています。

スタッフの得意分野を活かし、重症ケア、ターミナルケア、心不全指導など個々の能力を発揮しながら後輩指導を行い、ケアの充実を図っています。また、新人～卒後 3 年目のフォロー体制の充実、スタッフ教育にも力をいれています。緊急入院、検査、処置の多い中、お互いに助け合いながら働きやすい環境づくりに努めています。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

1. 地域のニーズにあった効果的な病床管理
2. 知識・技術の向上、質の高い看護、働き続けられる環境づくり
3. 患者に寄り添い安全・安心な医療の提供

4 B 病棟

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：井出早百合

副看護師長：阪東美雪

看護主任：田村智美

看護師：20名（非常勤看護師1名含む）

看護助手：6名

▶ 業務内容 ◀

許可病床数：38床（HCU5床 無菌室8床を含む） 看護基準：7：1

入院診療科：内科678件（90.4%）【血液：377人 呼吸器：118人 消化器：129人
循環器：31人腎臓：23人】

他科72件（9.6%）【外科：38人 整形：5人 泌尿器：19人

口腔外科：2人 眼科：6人 婦人科：2人】

平均病床利用率：86.1% 平均病床稼働率：90.3% 平均在院日数：15.9日

予約入院数：370名 緊急入院数：364名

化学療法件数（延べ）：1228件 輸血件数：1068件

▶ 2025年度総括 ◀

これまで同様血液内科、呼吸器内科を中心として、消化器内科、乳腺外科、消化器外科、泌尿器科など院内の化学療法患者の受け入れに力を入れてきました。また今年度は、口腔外科や眼科、前立腺生検など院内の空床状況に応じ、新しい診療科の受け入れも積極的に行いました。およそ4割が卒後3年以下の経験の浅いスタッフであり、心理的安全性が保てるようこれまでの業務改善を活かしながら指導・教育を行いました。また、患者さんが治療完遂できるよう身体的ケアや精神的サポート、家族ケアにも力を入れ、終末期の患者さんがその人らしく望む生活が送れるよう退院調整看護師との連携を図りながら、一人一人と向き合い、寄り添えるよう日々看護を実践しています。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

1. 健全経営への貢献
2. 安全な医療の提供・看護の質向上
3. 職場環境の改善

5 A 病棟

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：豊家亜矢
 副看護師長：島袋璃紗 今野詩織
 主任看護師：久米優子 武澤瞳
 看護職員：20名 看護補助者：5名

▶ 業務内容 ◀

許可病床数 37床
 看護基準 7:1
 入院診療科：整形外科・消化器外科・乳腺外科・泌尿器科・歯科口腔外科・小児科・眼科・内科
 二次応需：外科・整形外科・小児科

入院患者総数	1262名	手術件数	957件
予約入院件数	927件	整形外科	389件
緊急入院件数	335件	消化器外科	185件
平均在院日数	8.9日	乳腺外科	132件
平均病床利用率	85.2%	泌尿器科	179件
平均看護必要度①	41%	歯科口腔外科	64件
平均看護必要度②	47.9%	眼科	8件
		全身麻酔手術件数	873件

▶ 2025年度総括 ◀

5A病棟は整形外科・消化器外科・乳腺外科・泌尿器科・歯科口腔外科といった周術期の患者を主とし、化学療法や終末期、小児科や内科など多岐にわたって対応する混合病棟です。診療科の知識・技術の習得、向上に努め、プログラムの見直しを行いながら後輩指導、育成に努めました。また、インシデント事例に対しては感性を高められるように日々カンファレンスを行うとともに、リスクマネージャーを中心に対策を立案・共有し、再発防止への取り組みを行いました。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

退院後の療養に向けた指導を充実させ、患者さんが不安のない状態で退院できるように関わっていく。

また、看護師の負担軽減を図るために、業務内容の見直し・改善をすすめ、ワークライフバランスを推進する。

5 B 病棟

▶ 職員紹介 ◀

看護職員構成：看護師長 関根貴子
副看護師長 滝愛・豊亮一郎
主任 相原悦子
看護師 22 名 看護補助者 7 名

▶ 業務内容 ◀

許可病床数 34 床 看護基準 13：1

地域包括ケア病棟では入院患者の約 80%以上が後期高齢者である。地域包括ケア病棟の入院機能の一つとしてポストアキュート機能を担っているため、急性期を脱した患者の早期離床や ADL の向上、患者の目的達成に向けた在宅支援サポートを他職種で連携し、医療・看護、リハビリテーションを提供している。また、サブアキュート機能として状態が悪化した在宅、施設からの患者の受け入れ、レスパイトに対応し、住み慣れた地域で安心して生活できるように支援している。

▶ 2025年度総括 ◀

2025 年度も平均病床利用率は 90%以上、平均稼働率は 96%以上、月の平均患者数は約 31 名となっており許可病床数の 91%は維持できた。

院内転入率は平均 60%台、在宅復帰率の平均は 84%台と共に地域包括ケア病棟の要件を満たした。また、サブアキュート機能として自宅・地域からの入院平均は約 40%となっており、地域包括ケア病棟の機能を果たすことが出来た。入院患者は後期高齢者が 80%以上となっており、疾患や入院に伴い ADL が低下し、本人の目的とする退院後の生活に向けられないことも多い。そのため、今年度は活動を高めるため、集団リハビリテーションを看護師、理学療法士、看護補助者と連携し実施した。

患者の活動意欲を高め、生活リズムが整うよう、今後も継続した実施が望ましい。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

1. 病院運営に向けての意識の向上と取り組みができる。
2. 看護の質の向上と安全な看護の提供ができる。
3. 職場環境の調整・改善ができる。

NICU / GCU

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：鈴木楓（新生児集中ケア認定看護師）

副看護師長：GCU 土橋ひろみ（～ 2/28）

看護主任：NICU 渡部由記

看護スタッフ：NICU 助産師 1 名 看護師 19 名（新生児集中ケア認定看護師 1 名（～ 7/10）
集中ケア認定看護師 1 名）

GCU 助産師 2 名、看護師 8 名

▶ 業務内容 ◀

地域周産期母子センターとして、当院出生だけでなく、神奈川県県央北相地区で出生した急性期治療が必要な新生児の受け入れを行っています。主な対象は、早産、低出生体重児、呼吸器管理を必要とする児です。児の発達・発育に応じた支援や、育児指導、患者家族を中心としたファミリーセンタードケアを行っています。

許可病床数 NICU：12 床、GCU：14 床

看護基準 NICU 3 対 1、GCU 6 対 1

2025 年度実績

入院総数：203 件（内訳：院内出生 135 件、院外出生 67 件）

院外出生内訳：バックトランスファ 19 件、新生児搬送 48 件

▶ 2025年度総括 ◀

安全な医療・看護を提供するために、技術チームを中心として医師・認定看護師からの勉強会を開催しました。在胎週数 28～33 週までの患者が前年度より増加し超早産児のケアを中心に日々カンファレンスを行い話し合いをすることができました。一人ひとりが看護の課題解決に向けて自主的に行動し、看護の質向上、維持にむけて取り組みました。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

1. 安全文化の醸成：安全について考える環境作りとコミュニケーションの活性化
2. 連携：関連部署、多職種との協働
3. 人材育成：自律性の向上と学ぶ意欲への支援

専門分野に特化した教育に力を入れ、安全で質の高い急性期治療の提供と、親子関係を形成するために何ができるかを常に考え、ご家族それぞれに寄り添える看護師を育成していきます。また看護の成果を実感できるやりがいのある職場環境を目指します。

検査治療部門

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：小林由紀子

副看護師長：今井弘恵 大嶋美加子

看護職員：常勤看護師 7 名、非常勤看護師 7 名、内視鏡洗浄スタッフ 2 名

▶ 業務内容 ◀

- ・安全で安心な検査治療の実施ができる運営と緊急の検査治療に対する積極的な受け入れ
- ・検査治療に関わる看護の実践と質の向上への取り組み（情報共有・勉強会実施・患者指導の実施）
- ・放射線科造影検査における看護師による静脈注射の実施（CT/MRI）

▶ 2025年度総括 ◀

近年の高齢化、慢性疾患、癌患者の増加などにより、在宅医療が推進される中、外来部門の診療や看護はますます重要になってきており、検査治療部門もその一角を担っている。多様な背景をもつ患者へ対応するために、検査治療部門は、血液浄化センター、外来化学療法室、内視鏡室のそれぞれの専門性を持ちつつ、一つ一つが小さな部署のため協力体制をとり業務を行ってきた。また今年度は、外来化学療法室を 8 床から 14 床へ増床、内視鏡室は TV 室を増設と、地域に求められる医療提供をするために整備してきた。どのような状況下でも、安心して安全な検査治療を実施できるよう看護の質の向上に努めてきた。それぞれが専門性の高い部署であるため、応援体制を確立することは難しいが、これからも協力体制を強化し、看護の質を維持していきたいと考える。さらに医師の業務のタスクシェアとして実施している CT と MRI の造影検査の静脈穿刺は、継続して実施していく。また、IV ナースレベル 3a を取得した看護師による非壊死性抗がん剤の穿刺も開始している。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

増床した外来化学療法室での穿刺業務のほか、病棟との連携をとり、治療前のオリエンテーションの実施の幅を拡大させていく。また、内視鏡室は、セデーション下での治療の拡大と健診センター健診者の内視鏡件数を増加させたことでの、患者・健診者の満足度向上を目指す。地域に求められている医療看護を提供できるよう、患者の獲得と看護の質を落とさないよう努めていきたいと考える。

VI 事 務 部 門



総務企画課

▶ 職員紹介 ◀

課長：風間貴之
課長補佐：田窪良章
総務係長：西山洋介
給与係長：高梨 裕輝
事務員：伊藤李花子・花井航平・竹之下由果・加藤岳
非常勤事務員：中島悠子・松浦実・佐藤淳一
非常勤用務員：佐藤和枝
非常勤電話交換手：工藤里子・片岡美奈子
非常勤清掃員：岸田博隆

▶ 業務内容 ◀

人事（採用、退職）、給与（決定、計算、支給、税務）、労務管理（出退勤、社会保険関係）、福利厚生、調査統計など

1. 総務に関する業務

院内の連絡調整、院内諸行事の企画・運営、公印管理、文書管理、防火・防犯対策、諸規程の制定・改廃、医療関係法令に基づく届出、情報公開、旅費等

2. 人事に関する業務

採用、任免、懲戒等、退職に関する事務

3. 給与に関する業務

給与（決定、計算、支給、税務）に関する事務

4. 職員に関する業務

兼業許可、勤務時間管理、休日・休暇、栄典、表彰、研修、倫理等

5. 厚生に関する業務

健康保険組合、福利厚生、災害補償、健康管理、安全管理等

▶ 2025年度総括 ◀

認証等・法令対応では、3年に1度の更新となる ISO の認証更新を完了したほか、医療法第25条第1項に基づく立入検査や国勢調査を適正に対応した。

補助金・支援金等の申請事務では、救急医療機関物価高騰対策支援金、生産性向上・職場環境整備等支援事業給付金及び神奈川県病院経営緊急支援金を申請し、財政支援の確保に努めた。

研修・職員教育では、全従事者を対象として コンプライアンス研修、ハラスメント研修、情報セキュリティ研修 を実施し、法令遵守、職場環境改善、情報管理の各面における意識向上を図った。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

- ・就業規則その他各種規程に基づき適正な手続き及び管理を行うとともに、課題が発生した際は課内及び関係部署と連携し、円滑な解決に努める。
- ・法令等を遵守し、法令改正等があった場合は必要な対応を迅速に実施する。
- ・監査等において指摘を受けた事項については、速やかに改善措置を講じるとともに、再発防止策の徹底を図る。
- ・課内業務の属人化防止を推進するため、課内業務マニュアルの整備及び更新を行い、担当者不在時においても業務継続が可能な体制を構築する。
- ・業務手順の見直し業務の効率化を図ることにより、時間外勤務の縮減に努める。

経 理 課

▶ 職員紹介 ◀

課長：薄田浩司

課長補佐：高野充彦

経理係長：三嶋隆也

課員経理係：米山裕子、福澤幸世

課員契約係：浅沼小百合、藤森香帆、中村彩香

▶ 業務内容 ◀

経理係：現金、預金等の出納及び管理に関すること。診療収益・費用等の管理に関すること。年次計画（予算）及び月次決算・年次決算に関すること。債権及び債務の総括管理に関すること。財務諸表等の作成、保管及び公表に関すること。会計記録の確認等に関すること。

契約係：契約に関すること（業務委託、保守委託、売買、賃借契約）。建物・附属設備・車両等の営繕・工事及び保守管理に関すること。医療機器の購入・修理及び保守管理に関すること。消耗物品、診療材料等の購入・管理に関すること（医薬品・給食用材料を除く）。電気設備、空調設備、給排水設備及び消防設備等、各種建物設備の保守管理に関すること。清掃及び廃棄物（医療廃棄物、一般及び産業廃棄物）の管理に関すること。防火・防災に関すること。医療ガスの管理に関すること。駐車場（院内・院外）に関すること。

▶ 2025年度総括 ◀

経理係：令和7年度は、経理係長の人事異動があり体制を整えた。前年や前月との収益費用の比較分析を行い、吐出した額の詳細を調査して関係者への情報共有を実施。また、費用の削減、適正化に向け、関係者との情報共有や近況聴取を実施し抑制に取り組んだ。決算や収支報告書において収支分析を作成することで、病院の財務状況を把握。月々の費用推移にて材料の棚卸しや減価償却費の推移をはじめ経費抑制などの情報共有をし、病院経営に寄与することができた。

契約係：課長補佐及び係員が交代し新たな体制でのスタートとなった。契約業務においては、これまでの契約内容を整理してJCHO 調達等合理化計画に基づき、医療機器や委託業務等の購入・契約を入札競争下において、価格の抑制・削減を目標に適切な契約に努めた。物品購入においても、必要性を再度検討するとともに、市場価格に見合った価格交渉を行い他社との比較にて費用の削減を行った。これらにより、前年対比での費用削減を行うことが出来、病院経営に寄与することができた。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

課内全体において、物価上昇に対しての経費削減・価格抑制をさらに意識する。

市場の動向や近隣状況の把握、他病院との比較、病院内で抑制できるものを常に意識し業務を遂行する。

各担当業務において優先順位を考え、時間内に効率良く業務を遂行するとともに担当外業務についても知識の習得に努める。

費用削減・無駄の無い在庫管理の徹底・契約の適正化等を図り、最適な提案ができる事務を目指す。

医 事 課

▶ 職員紹介 ◀

課長：織田修治（事務部長兼任）

▶ 業務内容 ◀

当課は、総合受付（会計）、外来クランク（外来算定業務）、病棟クランク、入院算定業務について、同一社による業務委託しており、スムーズな情報交換を図りつつ業務管理を行った。また、不安を抱えた患者さん（その家族）と医師をはじめとする各医療専門職との架け橋として、待ち時間の短縮や会計等の医事サービスの提供を心掛けた。

▶ 2025年度総括 ◀

病院職員（総合職）がいないことも関係し、医事関連業務の委託化が進み、より一層の委託業者との情報共有が必要となった。

そのため、病院職員、委託職員が協力し、患者サービスの充実に力を入れた。また、日常的に行ってきた他医療機関や審査機関との交流により、施設基準、診療報酬に係る情報交換をスムーズに行うことができた。

最後に、医事課病院職員がいない中、委託職員の体調不良者（感染症を含む）が出ることなく一年を乗り越えることができたことが何よりの結果であった。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

- ・経営の安定への貢献：病床利用率確保、上昇、新規入院患者獲得への取り組み、ベッドコントロールを見据えた働き、経営利益の増・費用の削減、事業収益規模の変動等を勘案した適正人員の見直し
- ・地域連携の強化：地域医療支援病院となるため、また紹介受診重点医療機関になる、または、なった後の紹介・逆紹介率の向上等諸要件の確立支援への取り組み
- ・職場環境の改善：コンプライアンスの遵守、業務改善による超過勤務の抑制・平準化の徹底、働き方の見直し超過勤務の廃止、業務手順書等マニュアルの整備・充実

診療情報管理室

▶ 職員紹介 ◀

専門職 鹿島一智

室員 大川恵美子、福澤幸世、宮川楓、深澤加寿子（非常勤）

▶ 業務内容 ◀

● DPC 関連業務

DPC コーディング、退院患者調査管理およびデータ提出（様式 1、様式 3、様式 4、入外 EF ファイル、D ファイル、K ファイル、H ファイルの確認・作成）、診断群分類研究支援機構への DPC データ提供、全退院患者の持参薬登録、病院情報の公表

● 診療録管理および法的業務

全退院患者の病歴管理、退院時要約 2 週間以内・30 日以内完成率の管理および転科時要約の管理、全国がん登録、診療記録の量的監査・質的監査、スキャン取り込みリストの管理

● その他

カルテ開示、各種依頼統計データ作成、電子カルテデータ抽出及び匿名化作業、NCD 登録（外科・泌尿器科）、地域包括ケア病棟転棟者リスト作成、JROAD 提出データ作成

▶ 2025年度総括 ◀

常勤職員の減少があり、個人の業務担当の変更を行った。

DPC データ提出支援ツールの大幅な変更や ISO 審査に伴い手順書の見直しや、例年より多い他部署からの統計データ依頼に対応する中でも、必須業務に関しては滞りなく業務を遂行できた。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

診療報酬改定の年になるため、理解に偏りが無いよう情報共有を行い対応する。改定により DPC 期間が変更された疾患については適切なパス日数の情報提供を行い、既存パスの日数見直しについて提案を行っていく。

また、既存業務において関連部署と運用の見直しを行っていく。

全退院患者の病歴管理については引き続き登録業務を進めていく。

医事課 医師事務作業補助員

▶ 職員紹介 ◀

常勤：星山直美、座間未希、樋口和佳奈、中辻あゆみ 非常勤：遠藤香

派遣職員：佐藤永奈、高橋久美子、秋山あゆみ、佐藤梨々香、落合紗弥加、阿部香澄

▶ 業務内容 ◀

■ 文書作成補助

- ・退院時（転科時）要約代行作成（内科・外科・産婦人科・小児科・眼科・泌尿器科・歯科口腔外科）
- ・保険会社診断書等の書類代行作成（全科）
- ・紹介状返信代行作成（産婦人科・歯科口腔外科）
- ・転院時・診療録の代行入力（内科・外科・整形外科・泌尿器科）

■ 検査説明・代行入力

- ・検査オーダー代行入力（内科・血液浄化センター・外科・地域連携室）
- ・検査説明（内科・母子センター・外科・血液浄化センター）

■ 医療の質向上に資する事務作業

- ・NCD 登録（循環器内科）
- ・周産期登録、産科集計、婦人科手術台帳集計（産婦人科）
- ・大腸癌手術症例登録（外科）
- ・JOANR 登録（整形外科）

■ 診療補助 【内科】

■ その他

- ・PACS 読影レポート既読管理業務
- ・医師への電子カルテ操作
- ・主治医意見書の文書管理

▶ 2025年度総括 ◀

新規業務として介護保険主治医意見書の全ての代行作成と転院時の診療録代行入力の業務を開始した。また部署内での勉強会を全 12 回行い、知識習得に努めた。

- ・診断書等書類代行作成件数：月平均 483 件（前年度 月平均 478 件）
- ・退院時（転科時）要約代行作成件数：月平均 307 件（前年度 月平均 307 件）

▶ 2026年度目標・計画 ◀

診療情報提供書の代行入力を予定している。部署内の勉強会を継続し、知識習得と業務の質の向上を図り、医師の事務作業負担軽減へ繋げていきたい。

安全管理室

▶ 職員紹介 ◀

安全管理部長：林京子（医師）、室長：新井 正秀（医師）

感染管理担当：今井純好（ICD、感染防止対策委員長）、井上光子（ICN、副委員長）、他 17 名
医療安全管理者：早乙女 珠美（看護）

安全管理室構成員：栗原珠美（医師）、山下雅子（歯科医師）、須貝貴志（医療放射線管理責任者代行）、大塚知信（医薬品安全管理責任者）、平川智子（医療機器管理責任者代行）、小林由紀子（看護師長）、高橋努（事務）、大川恵美子（事務）、7 月～花井航平（事務）

▶ 業務内容 ◀

（医療安全）

- ・医療安全地域連携加算 1 取得と地域連携施設とのカンファレンス、安全ラウンド（7 回 / 年）・新入職員研修
- ・医療安全管理指針とマニュアル見直し ・安全予防委員会と連携し院内安全ラウンド（毎月）
- ・医療安全対策実施状況の確認・指導・助言 ・全職員への教育 ・看護部医療安全研修（新人、ラダーⅣ）

（感染管理）

- ・院内感染発症の分析と再発防止の検討 ・感染症発症時の職員、患者への感染対策の確認と指示
- ・定期的に院内ラウンドを実施し、感染防止対策の実施状況の確認、指導、助言
- ・院内における抗菌薬使用の管理 ・感染防止対策マニュアルの見直し、改訂
- ・全職員への教育 ・他施設との感染防止カンファレンスに参加（年 4 回）

▶ 2025年度総括 ◀

（医療安全）医療安全意識を向上することを目標に、職種を超えた安全の視点を図るため、多職種による院内ラウンドを実施した。ラウンドシートの確認項目は、インシデント発生につながる内容を考慮し、環境の整備状況と、マニュアルの遵守状況を確認できる項目とした。ラウンドシートの項目に沿って各部署の点検や、職員への聞き取りを計 15 部署実施した。多職種によるラウンドの実践は、関係性の構築や共通の視点で自部署以外の現状を知る機会となっている。また、他部署の取り組みを尊重しあうことで、自部署への医療安全への取り組みにつながった。

（感染管理）感染防止対策強化のために最新の知見を加えることを目的に既存のマニュアルを見直し、改訂を行った。改訂にあたっては現場での運用状況や課題を踏まえ実効性の高い内容となるように検討を重ねた。改訂後のマニュアルの内容について、職員へ周知徹底するため全職員を対象とした研修会を実施した。職員一人ひとりの感染防止に対する意識の向上とマニュアルに基づいた適切な行動の徹底を図ることができた。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

- （医療安全）・医師からの報告件数の増加・医療安全マニュアルの整備と指針修正
- ・多職種の協力のもと、院内全体での医療安全意識を向上することができる
- （感染管理）・手指消毒剤の実施回数が前年度より増加する（10 回 / 日 / 患者 を目指す）
- ・職業感染予防記録の管理方法を確立する

総合患者支援センター

職員紹介

- センター長：今崎貴生（院長）
- 地域連携室 室長：吉田宗紀
事務員：伊藤晴夏、石川留美、北村亜沙美（業務委託）
- 患者支援室 師長：浦部裕子
退院調整看護師：瀬戸口望、小宮聡子（3月16日まで）、佐藤くみ子（3月17日から）
入院支援看護師：細谷誓子（9月30日から）
- 患者サポート室 看護師：鮎澤奈穂子
- 医療福祉相談室 室長：吉田宗紀
ソーシャルワーカー：坂東香織、山本裕美、佐藤麻優

業務内容

総合患者支援センターは、地域連携、患者支援（入院支援・退院調整）、患者相談窓口、医療福祉相談の4つの機能を有しており、医師、看護師、ソーシャルワーカー、事務員で構成され、地域の皆様と患者さんのご要望にお応えできるよう、院内外の調整と支援を行っている。

2025年度実績

〔医療連携部門〕

診療科	紹介件数	逆紹介件数
内科	3,989	3,001
小児科	254	385
外科	353	474
整形外科	676	614
皮膚科	94	58
産婦人科	619	131
眼科	279	264
歯科口腔外科	1,250	1,540
泌尿器科	446	350
計	7,960	6,817

紹介率	99.5%
逆紹介率	71.6%

受診・検査受付件数		
受診依頼	外来	61
	入院	308
	救急	304
	計	673
検査サービス	CT	211
	MRI	126
	MMG	0
	内視鏡	16
	計	353

〔医療相談部門〕

相談件数			支援内容		回数
診療科	回数	人数	在宅退院	在宅退院をするための在宅ケア諸サービスの活用援助	2,144
内 科	6,896	1,145	転院援助	転院のための病院施設などの選定援助	1,100
小 児 科	42	11	施設入所	転院のための介護施設等の選定援助	1,883
外 科	565	161	制度利用	社会保障制度、福祉制度などの活用についての援助	807
整形外科	1,606	323	退 院 後	退院に伴う様々な問題へ対し、不安の軽減と取組を促す援助	2,663
皮 膚 科	5	1	受療援助	当院への受診や入院についてのサポート	63
泌尿器科	279	76	療養生活	療養生活上の課題、心理社会的問題の解決等に対する援助	709
産婦人科	35	6	医療費等	医療費など経済的問題に対する援助	181
眼 科	3	3	関係調整	患者さん・家族・職員・地域などの人間関係に対する援助	108
口腔外科	2	1	情報提供	患者さんの支援における関係者への情報提供、情報交換	1,524
そ の 他	52	31	そ の 他		57
計	9,485	1,758	計		11,239

▶ 2025年度総括 ◀

地域連携部門では、2025 年度も近隣医療機関から多くのご紹介をいただいた。

「地域連携セミナー」、「顔の見える医療連携の会」も引き続き開催。実際に地域の先生方とお会いすることにより、顔の見えるつながりを構築することが出来た。

退院調整部門では、病棟とチーム医療を行うことで入退院支援加算と介護連携指導料が増加した。

また、地域の講習会の講師依頼など多数あり、病院の機能について理解をしていただくことが出来た。

2025 年 9 月より患者支援部門に入院支援看護師が在籍したことにより、予定入院の患者の情報収集を事前に行うことで、退院支援の必要な患者に対し早期に介入をすることが出来た。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

地域連携部門では地域の医療機関からの相談件数に対し 70%の受け入れを目標とする。

退院支援部門においては今後も独り一人の患者さんに寄り添い、関係者との連携を密に行い地域貢献をしていきたい。

洗濯室

▶ 職員紹介 ◀

非常勤用務員 佐藤和枝

▶ 業務内容 ◀

リース寝具、リースリネン類の管理

リースタオル類の管理

委託洗濯品の管理

院内選択

縫製、修理

医師用当直室準備などの院内業務

感染汚品の一次消毒業務

▶ 2025年度総括 ◀

リース品の使用が円滑に出来るよう管理業務の遂行と、衛生面に配慮し、感染汚品の一次消毒を1名体制で行ってきました。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

情報収集に努め管理業務、院内業務の円滑な遂行と、衛生面に注意を払い、感染汚品の一次消毒業務に取り組んでいきたい。

VII 健康管理センター



健康管理センター 診療部

▶ 職員紹介 ◀

- ・ 今崎貴生 （センター長、専門：呼吸器内科 日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医）
- ・ 矢那瀬信雄 （副センター長、専門：呼吸器内科 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医、ICD 協議会認定インфекションコントロールドクター、日本医師会認定産業医）
- ・ 吉田宗紀 （部長、専門：外科、人間ドック学会認定医、検診マンモグラフィ読影認定医、日本医師会認定産業医）
- ・ 押田小百合 （専門：外科 日本外科学会専門医、日本乳癌学会乳腺認定医、検診マンモグラフィ読影認定医、乳がん検診超音波検査実施判定医、人間ドック健診専門医・指導医、日本医師会認定産業医）
- ・ 小川里佳 （非常勤、専門：呼吸器内科 日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本医師会認定産業医）
- ・ 宮島江里子 （非常勤 専門：労働衛生 労働衛生コンサルタント、人間ドック健診指導医、日本産業衛生学会指導医、検診マンモグラフィ読影認定医）

▶ 業務内容 ◀

院内、出張型健診での診察業務に加え、各専門医による読影を実施している。相模原市や座間市の自治体健診、予防接種、近隣企業の定期健康診断、産業医業務を通して、地域医療における予防医療およびプライマリケアの役割を担っている。

▶ 2025年度総括 ◀

2025 年度の受診者数（延べ）； 56,754 名（内訳；院内健診 33,845 名、院外健診：22,909 名）。受診枠は、午前約 100 人・午後約 40 人で 1 日 140 人程度が受診できる体制を継続した。9 月からは経口・経鼻内視鏡件数を徐々に増やし、近年の需要拡大に対して受け入れ体制の強化を図っている。

8 月に日人間ドック・予防医療学会より、保健指導体制構築に関する取り組みが評価され、健診施設機能評価努力賞を受賞した。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

4 月からは専任のセンター長（青山直善医師）を迎え、組織運営の高度化を進める。引き続き、質の高い健康診断、正確な健診結果を基本に業務を遂行する。各部署の連携をスムーズにし、より良い受診環境を整える。

2026 年度はオプション検査に、アレルギー検査（アレルギー View39）を追加する予定。

健康管理センター 看護部

▶ 職員紹介 ◀

看護師長：井上光子

副看護師長：中澤直子

保健師：3名、看護師：10名

▶ 業務内容 ◀

院内及び院外の健康診断における計測、採血、聴力などの実施。その他に、診察介助や医療面接（健診前問診）、特定保健指導、健診事後指導、電話相談、予防接種などの実施。

▶ 2025年度総括 ◀

当センターは経年受診者が多いため、受診者にとってより安全・安心な健診環境が提供できるように継続看護の実施と、知識・技術の向上に努めた。保健指導ができる人材確保のために医学的知識・運動・栄養のメカニズムと面接技法等を研鑽し、日々の保健指導に活かすことができた。また、多職種との連携を深め受診者の面談時間の調整やプライバシーの確保、指導内容の充実等に取り組んだ。今年度、京都で開催された人間ドック・予防医療学会「受けてよかった機能評価」において、集団指導から個別保健指導へ切り替えた取り組みに関して「努力賞」を受賞し、その内容について発表する機会を頂くことができた。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

1. 健全経営への貢献
2. 良質な健診の提供、看護の質向上
3. 職場環境の改善

健康管理センター 事務部

▶ 職員紹介 ◀

管理課長 松永邦夫

主任 高橋努

課員 山下めぐみ、菊池紀子、大野望、山本晃大、五味俊介、伊垢離鮎乃、
竹下彩純（2025 年 4 月採用）

非常勤 鳥海志津子、前田明美、藤ヶ崎彩夏（2025 年 4 月異動）

▶ 業務内容 ◀

人間ドック（日帰り・1泊コース） 生活習慣病予防健診 主婦健診 定期健康健診（法定健診）
相模原市特定健診 特殊健診 巡回健診車による健診、各種ワクチン接種などの事務に関する
こと

2025 年度実績（件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診者件数	6,144	4,098	5,500	5,206	3,854	4,663	5,584	6,017	5,250	3,520	3,279	3,639	56,754
内 院 内	1,942	2,460	2,936	3,251	2,819	2,901	3,413	2,859	3,199	2,789	2,598	2,678	33,845
内 院 外	4,202	1,638	2,564	1,955	1,035	1,762	2,171	3,158	2,051	731	681	961	22,909
人間ドック	279	347	497	545	495	522	645	464	585	466	449	489	5,783
市特定健診	135	239	242	292	331	322	385	372	565	520	386	340	4,075

▶ 2025年度総括 ◀

2025 年度は、健診センターの収益として年間 11 億円維持を目標とし、今年度も達成することができた。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

2026 年度は、協会けんぽの健診制度に対する大きな変更に対応していくと同時に、サービスの質の向上や職員のスキルアップを行い、安心・継続してご受診いただける「健診センター」を目指していきたい。

VIII 訪問看護ステーション



訪問看護ステーション

職員紹介

看護師長 石川由美 常勤看護師：池田有美・野田きよみ

非常勤看護師：小泉令奈（1月退職） 佐藤住栄 非常勤事務：早川香

業務内容

バイタルサイン測定、排便コントロール、清潔ケア援助（入浴・シャワー浴・清拭・洗髪・陰部洗浄・足浴・爪切り等）、食事指導、ターミナルケア、リハビリテーション・療養相談・療養指導・介護相談・介護指導、

医療処置：在宅酸素の管理、胃瘻、腸瘻、人工肛門、人工膀胱、吸引、バルンカテーテル管理、CV ポート、抹消点滴、皮下持続点滴、麻薬持続点滴、創傷処置、褥瘡処置、気切管理、腹水穿刺後の対応、輸血等の対応、PTGBD 管理

＜訪問利用者実人数＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	69	64	67	71	69	72	73	72	74	76	79	77
医療	7	7	8	11	12	10	7	10	8	7	8	5
合計	76	71	75	82	81	82	80	82	82	83	87	82

＜訪問看護延べ件数＞ 合計：4,407 件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	280	283	272	348	290	320	338	283	331	306	297	343
医療	67	35	52	64	115	66	35	40	65	65	71	41
合計	347	318	324	412	405	386	373	323	396	371	368	384

＜新規利用者＞ 合計：69 名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	3	2	6	5	2	3	4	2	4	4	5	2
医療	1	3	2	4	2	2	1	5	2	2	2	1
合計	4	5	8	9	4	5	5	7	6	6	7	3

＜終了者＞ 合計：60 名

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
死亡	病院	2	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	7
	在宅	3	2	2	0	0	3	0	3	4	2	3	0	22
入院		0	1	0	0	0	0	2	1	2	0	2	0	8
施設入所		1	1	2	4	4	1	2	1	1	0	1	2	20
その他		1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3
合計		7	4	4	4	4	5	5	5	7	5	7	3	60

＜指示書医療機関＞

相模野病院：35% 他病院：5% その他の診療所：7% 訪問診療：53%

▶ 2025年度総括 ◀

一年間の訪問件数が4407件、一日平均は18.2件／日。前年度より371件増となり、一日平均は1.6件増となっております。独居の方でも訪問診療や訪問介護等、多職種と連携し最後までその人らしく在宅で過ごせるよう支援してまいりました。介護保険での看取りも増え、昨年度より在宅で亡くなられた方が4件増えております。

サービス提供書や報告書を届ける中で、居宅介護支援事業所との関係づくりに努めてまいりました。また、新規依頼を可能な限り断らない姿勢を大切にし、利用者数の維持に取り組んだ一年でした。

▶ 2026年度目標・計画 ◀

1. 利用者の思いに寄り添い、安心して在宅療養を継続できるように最善の看護を提供します。
2. 知識や技術をスキルアップし、質の高い看護の提供と家族ケアに力を入れていきます。
3. 働きやすい職場環境の構築

IX 學 術 業 績



循環器内科

学 会 発 表			
論 文 名	Catheter ablation outcomes and life expectancy in very elderly atrial fibrillation patients : REHEALTH AF Study		
著 者	Hirata S, Okumura Y, Nagashima K, Kurihara T et al.		
書名(刊・号・頁)	JACC Clin Electrophysiol. 2026 Feb;12(2) : 307-321	発行年月日	2026年2月

乳 腺 外 科

学 会 発 表			
演 題 名	乳房温存術 乳腺断端のかがり縫合の提案		
演 者・発表者	林京子、羽廣健仁、小坂愉賢、上竹亜記子、藁谷美奈		
学 会 名	第 33 回日本乳癌学会学術総会	発表年月日	2025年7月10日
演 題 名	両側乳癌治療後に発症した治療関連骨髄異形成症候群 / 急性骨髄性白血病の一例		
演 者・発表者	藁谷美奈、羽廣健仁、林京子		
学 会 名	第 33 年回日本乳癌学会学術総会	発表年月日	2025年7月10日

腎臓内科 / 血液浄化センター

学 会 発 表			
演 題 名	乳癌手術後に痙攣発作を認めた低 Na 血症の一例		
演 者・発表者	酒井健史		
学 会 名	内科学会第 710 関東地方会	発表年月日	2025年12月13日

歯科口腔外科

学 会 発 表			
演 題 名	腐骨形成を伴った上顎骨線維性異形成症の 1 例		
演 者・発表者	高部芳哲、山下雅子、他		
学 会 名	第 70 回日本口腔外科学会総会	発表年月日	2025年11月15日
論 文 名	舌に生じた Spindle cell lipoma の 1 例ならびに本邦における臨床的検討		
著 者	山下雅子、高部芳哲、他		
書名(刊・号・頁)	日本口腔内科学会雑誌 (第 31 巻第 2 号 30 頁)	発行年月日	2025年12月

麻 酔 科

学 会 発 表			
演 題 名	重症大動脈弁狭窄症を合併した超高齢者の大腿骨転子部骨折を脊髄くも膜下で管理した1例		
演 者・発表者	金澤正浩		
学 会 名	第38回日本老年麻酔学会学術集会	発表年月日	2026年2月28日

消化器内科／内視鏡室

学 会 発 表			
演 題 名	膵がんってどんな病気？ ～早期発見がカギ～		
演 者・発表者	松本高明		
学 会 名	市民公開講座	発表年月日	2025年6月20日
演 題 名	膵癌における早期診断の重要性 ～膵がんドックについて～		
演 者・発表者	松本高明		
学 会 名	地域連絡協議会	発表年月日	2025年7月17日
演 題 名	膵癌における早期診断の重要性 ～膵がんドックについて～		
演 者・発表者	松本高明		
学 会 名	健康講演会	発表年月日	2025年11月14日
演 題 名	膵がんにおける早期診断の重要性		
演 者・発表者	松本高明		
学 会 名	地域連携セミナー	発表年月日	2026年3月18日

薬 剤 部

学 会 発 表			
演 題 名	当院における術後疼痛管理チームの活動報告		
演 者・発表者	吉田美欧		
学 会 名	第10回 JCHO 地域医療総合医学会	発表年月日	2025年11月28日

臨床検査部

学 会 発 表			
演 題 名	当院における生化学検査（I）オーダー数適正化の取り組み		
演 者・発表者	小林芳宏		
学 会 名	第 10 回 JCHO 地域医療総合医学会	発表年月日	2025年 11月 29日

リハビリテーション室

学 会 発 表			
演 題 名	JCHO-DX プロジェクトにおけるリハビリテーションチームの取り組み：カルテ記録を臨床時間内に行うための DX		
演 者・発表者	佐々木孝修		
学 会 名	第 10 回 JCHO 地域医療総合学会	発表年月日	2025年 11月 28日
演 題 名	立ち上がり動作の改善により疼痛緩和につながった右膝蓋大腿関節症の症例報告		
演 者・発表者	吉富桃子		
学 会 名	第 10 回 JCHO 地域医療総合学会	発表年月日	2025年 11月 29日

健康管理センター（看護部）

学 会 発 表			
演 題 名	多職種連携で挑んだ個別保健指導モデル ～現場力で築いた“伝わる保健指導”の仕組み～		
演 者・発表者	原田亜紀子		
学 会 名	第 66 回日本人間ドック・予防医療学会	発表年月日	2025年 8月 22日

2025 年 度 年 報

2026 年 7 月印刷

2026 年 7 月発行

発行者 独立行政法人 地域医療機能推進機構
相 模 野 病 院

神奈川県相模原市中央区淵野辺 1 - 2 - 30

印刷所 株式会社相模プリント



独立行政法人 地域医療機能推進機構

相模野病院